

近石泰秋氏旧蔵の浄瑠璃本

—— 附リ・浄瑠璃本目録 (稿) ——

はじめに

近石泰秋氏は、大著『操浄瑠璃の研究』正統二卷(風間書院、一九六一・一九六五年)を以て、人形浄瑠璃文楽の研究者として名高い。一九〇七(明治四十年)、香川県丸亀市生。香川大学名誉教授。一九九三(平成五年)年死去。

近石泰秋氏収集になる浄瑠璃本のコレクションは、義太夫節の、厚紙の表紙付きで糸綴じの本と限っても、その数五八三点。個人の収書としては他に例を見ぬ大きさである。

筆者は二〇〇七年から〇九年春まで、近石氏御自宅(香川県丸亀市)でご長男・一弘氏とともに資料整理に携わった。本稿の第一の目的は、その際の調査内容を報告するため、浄瑠璃本目録を公開するものである。また蔵書の成り立ちにつき今後さらなる検討を加える便を求めたいと考え、いま把握するところの概要を述べることを本稿の第二の目的とする。

なお近石泰秋氏旧蔵資料群は現在、香川県立ミュージアムに移され、浄瑠璃本を中心とする和古書のほか、自筆原稿、蔵書(近代刊本)に至るまで「近石泰秋資料」として一括して整理が進められている。資料の閲覧利用は、同館での受入作業終了ののち、諸準備が整った時点での公開となることをお断りし、読者諸賢にはご留意下さるようお願い申し上げます。また本稿に使用する整理番号は、現在の整理作業に用いるものであることをお断りします。

まづは日本有数の浄瑠璃本の巨大なコレクションの散逸を防ぐにあたって英断を下された、ご遺族と、ご長男近石一弘氏に深甚の感謝を申し上げます。

近石泰秋氏旧蔵の浄瑠璃本

神津武男

一、資料の概要と成り立ち

近石泰秋氏(以下、近石氏)に浄瑠璃本のコレクションのあることは、香川県下ではよく知られていたようである。筆者は二〇〇〇年以降、浄瑠璃本所在調査で訪問した複数の機関・関係者から、「近石泰秋先生のご自宅に」との所在情報を得ていた。しかし学界にはひろく知られた存在ではなかった。たとえば『義太夫年表 近世篇』の調査範囲には拳がっていない。

前述のように義太夫節の浄瑠璃本で、厚紙の表紙付きで糸綴じ本と限っても、五八三点を数える。内訳は、通し本五六五点、道行揃一八点。これ以外に、無表紙本(仮綴じ)の「抜き本」(いわゆる稽古本)二五六点や、義太夫節以外の流派の資料もある。

筆者の浄瑠璃本所在調査では、四国地方で愛媛大学附属図書館・二二二点、中国地方で広島文教女子大学附属図書館・四〇六点、九州地方で九州文学部国文学研究室・一三一点、を各地方での最多所蔵機関・点数と把握している。近石氏の浄瑠璃本コレクションは、四国ばかりか、中国・九州を含めて、近縁随一の所蔵点数を誇った。しかし同氏の個人蔵書はそれほどの分量を持ちながら、十分に注目されずにきたものと表現し得る。

無論、近石氏御自身の研究には充分活用された。一例を挙げれば、同氏も編纂に参加された『正本近松全集』(勉誠社、一九七七―一九九六年)では、諸本一覽に同氏所蔵本を掲げている。しかし後述する「道行揃」などは意を用いて収集しながら、まとまった論を為さずに終えられたものと見受けられ

る。ともかくも所在を公開しようとする本稿を為す所以である。

近石氏は、どこから入手されたものか。これを考えるには、二種の目録が参考になる。ひとつめは「家蔵浄瑠璃本目録 向陽廬主人」（整理番号・くらN-120）、ふたつめは「昭和二十六年八月購入 浄瑠璃本目録 斑山文庫本 近石春秋」（整理番号・くらN-1205）である。

前者は「近石用箋」と印刷された野線紙を束ねたものに五十音順に書名を順次書き加えていったもの。いくつかの書名に購入年・場所・金額を記すが、場所・年ともにまちまちである。購入年は、昭和十年代を記している。「向陽廬主人」は、近石氏の号と思われる。

後者は、「国立国語研究所」と印刷された野線紙を袋綴じにしたものに、やはり五十音順に書名を記すが、記入は一時であったとみえる。「斑山文庫」とは高野斑山、すなわち日本近世演劇の研究者で、尋常小学校唱歌の作詞者としても名高い、高野辰之（一八七六—一九四七年）の蔵書である。近石氏は高野の没後、一九五一年にその旧蔵書を購入したものと思われる。

近石氏の浄瑠璃本コレクションは基本的に、右二種の目録に載るものの集合とみなしてよい。ただし近石氏は、時に必要な資料と交換するなどした模様である（南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館・新見貫次文庫『崇徳院讃岐伝記』は、近石氏旧蔵書。また時に売却した場合（広島文教女子大学附属図書館『日吉丸稚桜』ほか）もあった。このため右二種目録の集合を中心として、多少の出入りがあったのが現状のままとまりなのだ、と考えられる。

なお近石氏の没後には、香川県立ミュージアム（旧・歴史博物館）ほか主催の「平賀源内展」（二〇〇三—〇四年）へ出品提供された模様であるが、それも返却されていた。近石氏の意図せざる形での増減は生じていない、と筆者は判断している。

前者「家蔵浄瑠璃本目録」には、「宗輔作品中、求ムベキモノ」「近松半二ノ作品ニシテ不足ナルモノ」を列記する頁があり、近石氏の収集が計画的に進められたものであった様子が窺われる。何より筆者には、昭和戦前の時点で並木宗輔と近松半二のふたりに注目しておられたところに、のちの研究動向から顧みて先駆的な視点が近石氏にあったように思われる。

二、通し本・道行揃の稀書

通し本・道行揃の稀書を取り上げ、近石氏コレクションの資料的価値の一端を示したい。なお和古書類全体の印象として保存状態のよいものばかりとはいえず、むしろ美本というべきものは少ない。理由は、作品を網羅することと蒐集の主目的が置かれたため、と考えられる。これほどの稀書が近石氏の手元に集まったというのは、その蒐集姿勢の賜物と思われる。

本稿は目録を併載するので、書誌情報は目録を参照願うとして、ごく簡単に示す。まづ通し本の部から天下一本五点。

〔1〕宝永七年（一七二〇）四月以前『梶久末松山』十行本

整理番号・くらN-098。糸屋市兵衛（大坂）板。

都大夫一中の八行本二板があるほかは、義太夫節の通し本としては従来、八行本一板が知られるのみであった。初めて中字本十行本の新出をみた。

〔2〕延享二年（一七四五）十一月『花筐女鉢木』五行本

整理番号・くらN-109。奥付なし。豊竹越前少掾引退披露の配り本。

巻頭に豊竹越前少掾（初代豊竹若太夫）の序文がある。本文は『北条時頼記』五段目節事「女はちの木」の抜き本で、節章を朱筆で書き入れている点に特色がある。本文は板行であるが、序文に越前少掾が「自ら朱点の節貼（ふしづけ）して」とあって、節章は、越前少掾自筆の書き入れと知られる。義太夫節草創期の太夫の墨跡として、文化的にも貴重な資料である。

当該本について、近石春秋氏も著書『操浄瑠璃の研究』口絵に写真を示し、「豊竹座開創前の若太夫」四二六頁に言及しておられる。越前少掾は、延享二年十一月『北条時頼記』興行を最後に太夫を引退した（以後は劇団の座本を勤めるほか、作者「梁塵軒」として活動することとなる）。引退興行では、三ノ切と、五段目節事「一世一代花がたみ女はちの木」を語った。当該本は、その引退披露の配り本である。

挟み込みの別紙に「昭和十四年十一月十九日新宿三越ニ於ケル一誠堂ノ古

書即売会ニテ求ム」云々、「向陽廬主人識」の墨書がある。既に「豊竹座開創前の若太夫」の要点が記されている。

〔3〕明和五年（一七六八）七月初演『粧水絹川堤』七行本

整理番号・くらZ-0903。鱗形屋孫兵衛（江戸）・森川豊助（大坂）板。

『義太夫年表 近世篇』は同作の諸本系統を徹底的に見誤ったが、当該本はその諸本系統の最初に置かれるべき、初板未改修本の新出である。

ただし当該本は、廿四丁裏六行目「腹な小粉」は与右衛門が「の」、「」内を埋木している。校正段階か、刊行後に追加された改修であるのかは不明。当該箇所は改修以前の本の有無によって判断することになる。現状では、当該本より原初とみなすべき本を把握できないので、暫定的にはあるが——諸本研究は常に暫定的である——、当該本を「初板未改修本」と位置付けておく。

〔4〕安永四年（一七七五）九月初演『恋娘昔八丈』六行本

整理番号・くらZ-0820。伝法屋吉九郎（大坂）・中島屋伊左衛門（江戸）・

中山清七（江戸）板。

独自の段編成をもつところに特色がある（目録備考参照）。

〔5〕寛政四年（一七九二）閏二月改題『累解脱打舖』七行本

整理番号・くらZ-0301。同作は、寛延三年（一七五〇）初演・初板の『新板累物語』を、寛政四年（一七九二）に改題したもの（内題、巻末の年記を埋木して改めた）。なお改題再演に連動した改修であるかは不明である。

従来、『累解脱打舖』は江戸板のみを把握してきたが、当該本の奥付は大坂板、大坂での後摺本の新出である。

筆者は、「江戸初演作品板木の移譲経過」（拙著『浄瑠璃本史研究』第一部「板元研究」第三章）において、江戸初演六十三作品の板木が、初演・開板の地江戸から大坂へ移動していく過程を整理した。『新板累物語』（累解脱打舖）は、大坂の板元の保有記録から「〔分類1〕文政十二年以前に流出したと推定さ

れるもの（大坂・玉水源治郎の受け入れ）」と分類したが、大坂での後摺本の現物の新出をみ、具体的な裏付けを得ることができた。

次の資料は現存二点目という稀書である。

〔6〕明和六年（一七六九）四月『追善五十年忌』七行本

整理番号・くらZ-0220。正本屋小兵衛（大坂）・鱗形屋孫兵衛（江戸）板。

同作は、横山正著『近世演劇攷』（和泉書院、一九八七年）に図版で紹介され、横山氏個人の所有は知られていたが、公の機関に収まるものが少ない。筆者の調査では、広島文教女子大学附属図書館本と当該本の二点のみで、これ以外の所在を知らない。二点ともに虫損が生じているが、前者に多く、後者に少ないので、保存状態は当該本を良とする。

続いて「道行揃」の稀書。

「道行揃」とは、道行や節事といった優れて音楽的な部分を複数作から取り集めて一書となすもの。十八世紀前半までの人形浄瑠璃界では、素人が稽古を許されたのは道行・節事という、短い部分であったことに対応する存在である。素人の関心が「段物」、芝居・劇の部分へ進むようになると、段物を単行・抜摺する「抜き本」が登場して、旧代の「道行揃」は十八世紀後半には新規の編纂が止むというもの。この点は、拙著『浄瑠璃本史研究』第一部「浄瑠璃本研究」、第一章「浄瑠璃本の種類と性格」、五節「道行揃」に詳述しているので参照願いたい。

道行ばかりを載せ、段物をまったく含まないにも拘わらず、いまなお「段物集」という近代の演劇研究者が案出した用語で呼称されるほどに、研究の未熟なところのひとつであるが、近石氏は早く「道行揃」に着目され、収集を進めておられたことが知られた。

道行揃は、それ自体が稀書である。日本国内での浄瑠璃本所在調査に基づけば、「通し本」は三百五十七箇所、二万三千冊余を数え、「道行揃」は七十箇所、二八二冊を数えるばかり。通し本の1%ほどしか残らない「道行揃」

は、ただでさえ稀少な資料である。

また道行揃の稀少性は、現存二八三冊の内の六五冊、二割超が「天下一本」であるという点にも示されている。「木板本であるのだから、どこかに同板本が残っているはず」と考えられやすいが、印刷本であっても、手工業による近世期の板本は、書写資料に劣らず、個性的な、唯一の資料である場合も少なくない。

天下一本の「道行揃」は、国内三十五箇所に所蔵されている。複数を所蔵するのは、香川県立ミュージアム「近石泰秋資料」が七冊、神戸女子大学図書館（森修文庫）が四冊、天理大学天理図書館・東京大学総合図書館・東京大学文学部・東京都立中央図書館・福井県文書館・早稲田大学演劇博物館（辻町文庫）、安田文吉氏は各三冊。福井県文書館（桜井家文書）は伝世の古文書中にまとまって残存したものであるが、その他は研究者個人や研究機関が意を尽くして収集した資料である。これらの中にあつて、近石氏が最多七冊の天下一本を収集しておられたことに、筆者は驚嘆を覚えたものである。

近石泰秋氏収集の天下一本の道行揃は、次の七点。

- [7] 享保十二年（一七二七）正月か『浄瑠璃二軒操』 整理番号・くらZ-1276。
- [8] 享保十九年（一七三四）二月頃『竹本常盤松』 整理番号・くらZ-1269。
- [9] 元文五年（一七四〇）二月頃『音曲姫舎松』 整理番号・くらZ-1271。
- [10] 寛保元年（一七四一）正月か『音曲軒玉水』 整理番号・くらZ-1279。
- [11] 宝暦二年（一七五二）正月か『音曲通天桜』 整理番号・くらZ-1274。
- [12] 宝暦九年（一七五九）二月頃『音曲調子笛』 整理番号・くらZ-1266。
- [13] 明和七年（一七七〇）正月か『音曲太平楽』 整理番号・くらZ-1278。

道行揃は、刊年を記さないのであるが、年ごとの出版であつたらしく、前年の初演作品の道行を巻頭に据えている（大半は定番、スタンダードナンバーが並ぶ）。この点から、巻頭に据えられた作品の初演年をみれば、およその刊年を押さえることができる、と筆者は推定している。目録では、備考に年次推定の根拠を記しているので参照されたい。

まとめにかえて

近石泰秋氏の先駆的な業績のひとつには、浄瑠璃「絵尽」の存在への注目があつた。直接には著書『操浄瑠璃の研究』に説かれるところであるので、これに当たりたいが、「絵尽」の詞書から術語を拾い出し、浄瑠璃本読解の基本要素とみなした手法は、いまでも鮮明さを失っていないと筆者は思う。

近石泰秋氏の手元に残されていた絵尽是、次の十一冊十二点。目録では省略したので、ここに紹介しておきたい。

- [14] 享保十九年（一七三四）八月『那須与市西海祝』 整理番号・くらZ-0183。
- [15] 元文五年（一七四〇）二月『鷗山姫舎松』 整理番号・くらZ-0185-②。
- [16] 寛保二年（一七四二）九月『鎌倉大系図』 整理番号・くらZ-0185-①。
- [17] 延享四年（一七四七）三月『万戸將軍唐日記』 整理番号・くらZ-0189。
- [18] 宝暦元年（一七五二）正月『玉藻前曦袂』 整理番号・くらZ-0186。
- [19] 宝暦四年（一七五四）二月『相馬太郎享文談』 整理番号・くらZ-0193。
- [20] 宝暦九年（一七五九）三月『芽源氏鶯塚』 整理番号・くらZ-0191。
- [21] 宝暦九年（一七五九）九月『太平記菊水之巻』 整理番号・くらZ-0188。
- [22] 宝暦十二年（一七六二）閏四月『岸姫松轡鑑』 整理番号・くらZ-0187。
- [23] 明和四年（一七六七）十二月『梁模様妹背門松』 整理番号・くらZ-0184。
- [24] 明和六年（一七六九）正月『振袖天神記』 整理番号・くらZ-0190。
- [25] 安永四年（一七七五）九月『倭歌月見松』 整理番号・くらZ-0192。

近石泰秋氏の浄瑠璃本の整理に筆者が携わるに当たっては、田山泰三氏、内山美樹子氏の御高配を得ました。また御自宅での調査を許された近石一弘氏、ご遺族の皆様へ感謝申し上げます。また本稿をなすにあたり、香川県立ミュージアム御厨義道氏のお世話になりました。感謝申し上げます。

本稿は、平成二十三年度科学研究費補助金・基盤研究（B）「人形浄瑠璃文楽の近世期上演記録データベースの作成と活用・公開に関する基礎的研究」（研究課題番号：22320054。研究代表者・神津武男）の研究成果の一部である。

近石泰秋氏旧蔵浄瑠璃本目録（稿）

凡例

- 一、本稿は、近石泰秋先生旧蔵の、義太夫節浄瑠璃本 583 点の目録である。
ただし「通し本」（いわゆる丸本）、「道行揃」（いわゆる段物集）を掲げることとし、「抜き本」（いわゆる稽古本）を除いている。また義太夫節以外の流派についても除いた。
- 一、資料は、「通し本」と「道行揃」のふたつの部に分けて、各々作品名・書名の五十音順に配列した。
作品名が同じ場合は、行数の少ないものから多いものの順とした。
- 一、記載事項は、「作品名」「作品名よみ」「行数」「終丁丁付」「作品名の角書」「作者」「年記」「備考」「整理番号」「一点ごとの注記」とした。
- 一、「作品名」は、内題を採用した。なお原本が内題を欠く場合は他本から補ったが、特に注記しなかった。
- 一、「行数」「終丁丁付」は、板の異同ごとに示した。
- 一、「作品名の角書」は、内題に角書がある場合に記した。
- 一、「作者」は、原本の表記通りに記し、記載箇所は（ ）内に示した。「作者」と書いた下に連名を記す場合は、「作者 ○○○・○○○」の要領で示した。
- 一、「年記」は、原本の表記通りに記し、記載箇所は（ ）内に示した。
- 一、「備考」は、同行数本で異板のある場合、これを特記して、諸板間での当該本の位置付けを試みた。
なお異行数本の有無には、触れないこととした。
- 一、「整理番号」は、香川県立ミュージアムの整理番号の末尾四桁を以て、略記した。同館では現在、近石泰秋先生旧蔵資料について「近石泰秋資料」と仮称し、浄瑠璃本類を含む資料群については位置番号「くら Z」を当てている。整理番号としては、「近石泰秋資料 くら Z-○○○○」となる。
- 一、当該資料が初板初摺本である場合、「整理番号」の頭に“▼”を付した。
- 一、「一点ごとの注記」には、奥付の有無、欠丁の注記を示した。
奥付がある場合は、板元の名前を原本の表記通りに記し、その所在地を略号を以て示した。（大）は大坂、（京）は京都、（江）は江戸の意である。
- 一、書型は基本的に半紙本であるので、これを略したが、その他の書型については「備考」に記した。

【通し本】

嗚呼忠臣楠氏簞 ああちゅうしんなんしのはた
 〈十行〉終丁丁付「楠氏簞六十一納」
 作者 竹本三郎兵衛・若竹伊輔・八民平七（終丁裏）
 明和八辛卯歳臘月廿八日（終丁裏）
0924（菊屋七郎兵衛（京））

相生轡の松 あいおいくつわのまつ → 住吉誕生
 石ヲミヨ

愛護稚名歌勝鬨 あいごのわかめいかのかちどき
 〈七行〉終丁丁付「愛九十六終」
 作者 竹田外記・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・
 三好松洛（終丁表）
 宝曆三癸酉年五月吉日（終丁表）
 ※書名は題簽に拠る。未改修本には「初段」とのみ
 あって、内題がない。また巻頭に別に一丁あって、
 表に序文、裏に「愛護稚名歌勝鬨 初中後 役割」
 を載せる。のちに内題を「愛護稚名歌勝鬨 初段」
 と埋木した改修本もある。改修本には序文・役割は
 ない。終丁裏に「浄瑠璃太夫連名」がある。これは
 未改修本。

0925（奥付欠）
 〈十行〉終丁丁付「愛七十納」
 作者 竹田外記・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・
 三好松洛（終丁裏）
 宝曆三癸酉年五月吉日（終丁裏）
 ※書名は題簽に拠る。十行本には「初段」とのみ
 あって、内題がない。

0262（奥付欠）

赤沢山伊東伝記 あかざわやまいとうでんき
 〈七行〉終丁丁付「赤九十五」
 作者 並木宗助・安田蛙文（内題下）
 ※年記なし。
0611（奥付欠）

赤松円心緑陣幕 あかまつえんしんみどりのじんまく
 〈七行〉終丁丁付「幕九十了」
 作者 文耕堂・三好松洛（内題下）
 ※年記なし。
0327（奥付欠）

〈十行〉終丁丁付「赤六十五了」
 作者 文耕堂・三好松洛（内題下）
 ※年記なし。
0973（奥付欠）

悪源太平治合戦 あくげんだへいじがっせん
 角書「遠州夜啼石・山州奴茶店」
 〈七行〉終丁丁付「平九十納」
 作者 並木周蔵・安田蛙桂・浅田一鳥（終丁裏）
 延享四丁卯歳七月廿八日（終丁裏）
 ▼**0926**（正本屋九左衛門（大））
 〈十行〉終丁丁付「平七十終」
 作者 並木周蔵・安田蛙桂・浅田一鳥（終丁裏）
 延享四丁卯歳七月廿八日（終丁裏）
0927（菊屋七郎兵衛（京））

芦屋道満大内鑑 あしやのどうまんおおうちかがみ
 〈七行〉終丁丁付「大内九十四了」
 作者竹田出雲（内題下）
 ※年記なし。同作七行本には、初板（終丁丁付「大内
 九十四了」）と再板（終丁丁付「芦屋九十六納」）がある。
 また初板には、九十丁表五行目「近郷」の振り仮名
 の有無に特徴をみる未改修本（振り仮名あり）・改修
 本（振り仮名なし、板木差替に拠る）がある。

▼【初板未改修本】**0007**（初丁表欠。山本九兵
 衛（京）・山本九右衛門（大））

【初板改修本】**0855**（山本九兵衛（京）・山本九
 右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

〈十行〉終丁丁付「道七十治」
 作者竹田出雲（内題下）
 ※年記なし。十行本には、終丁丁付を「道六十九了」
 とするものと、「道七十治」とするものの二板を知
 る。これは後者。

0779（海老屋伊三郎（京）・鶴屋喜右衛門（京）・
 鶴屋喜右衛門（江））

0928（玉水源治郎（大）・今井七郎兵衛（京））

東鑑御狩巻 あずまかがみみかりのまき
 〈七行〉終丁丁付「東九十九畢」
 作者 並木丈輔・安田蛙桂・浅田一鳥（終丁裏）
 寛延元戊辰天七月十五日（終丁裏）

0328（加島清助（大））

〈十行〉終丁丁付「東七十畢」

作者 並木丈輔・安田蛙桂・浅田一鳥（終丁裏）

寛延元戊辰天七月十五日（終丁裏）

0013（鱗形屋孫兵衛（江）・八文字屋八左衛門（京））

安倍晴明倭言葉 あべのせいめいやまとことば

〈七行〉終丁丁付「倭九十二納」

竹田出雲掾（内題下）千前軒門人 作者 二歩堂・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終丁表）

宝曆拾一年辛巳正月廿日（終丁裏）

0612（奥付欠）

▼**0780**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

尼御台由比浜出 あまみだいゆいがはまいで

〈七行〉終丁丁付「尼百了」

作者 竹田出雲・長谷川千四（内題下）

※年記なし。

▼**0781**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

0929（奥付欠）

〈十行〉終丁丁付「尼六十九了」

作者 竹田出雲・長谷川千四（内題下）

※年記なし。

0974（八文字屋八左衛門（京））

菖蒲前操弦 あやめのまえみさおのゆみはり

〈七行〉終丁丁付「菖九十五尾」

作者 竹田出雲・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・三好松洛（終丁表）

宝曆四甲戌年二月三日（終丁表）

▼**0782**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

荒御霊新田神徳 あらみたまにったのしんとく

角書「矢口・後日」

〈七行〉終丁丁付なし（前丁「矢後日九十九大尾」）

東都福内鬼外・全門人森羅万象・浪花二一天作 戯作（終丁裏）

安永八年己亥二月八日（九十九丁裏）亥のとし卯月上旬（跋）

▼**1320**（山崎金兵衛（江）・伏見屋善六（江））

粟島譜嫁入雛形 あわしまけいずよめいりひながた
角書「文章巻物・神楽太鼓」

〈七行〉終丁丁付「粟九十四終」

作者連名 竹田出雲・三好松洛・並木千柳（前見返し）

寛延二己巳年卯月十八日（前見返し）

※前見返しに雛人形（男女一対）を描く（顔を墨、体を朱で摺る）。

▼**0930**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

伊賀越道中双六 いがごえどうちゅうすごろく

〈七行〉終丁丁付「伊賀百三畢」

作者 近松半二・近松加作（終丁表）

天明三癸卯年四月廿七日（終丁表）

※同作七行本には、初板と再板の二種がある。これは初板。

▼**0783**（鱗形屋孫兵衛（江）・伝法屋源七郎（大）・寺田吉九郎（大））

伊賀越乗掛合羽 いがごえのりかけがっぱ

角書「読切・講釈」

〈七行〉終丁丁付「伊賀越百五畢」

于時安永六丁酉季三月廿六日（終丁裏）

※作者署名なし。初摺本には、巻頭に序文がある。同作七行本には廿九・三十丁の板木を差し替えた改修本がある。廿九丁裏五行目「とめず“と”」、三十オ5「生ケね“共”。老の」、「”」の文字にキズがあるのが原板、改修本ではキズがない。これは初摺・未改修本。

0291（佐々井治郎右衛門（大）・山崎金兵衛（江）・鱗形屋孫兵衛（江））

石田詰将棊軍配 いしだづめしょうぎのぐんばい

角書「白川野関守が曲舞・那須野原の勝関」（題簽）

〈七行〉終丁丁付なし（前丁「石田ノ八十五尾」）

作者 万象亭・隅田喜四郎・中田林七・し葉叟・双木千竹・松鬼眼（終丁表）

天明三年癸卯正月二日（終丁表）

※同作七行本には、未改修本（終丁裏に「石田詰将棊軍配役割」がある）と、改修本（前見返しに役割がある。終丁表を後ろ見返しに貼付するため、奥付がない）がある。

▼【未改修本】**0931**（松本屋万吉（江）・上総屋利兵衛（江））

【改修本】**0856**（奥付なし）

石橋山鎧襲 いしばしやまよろいがさね

角書「股野流石打・真田帯組打」

〈七行〉終丁丁付「石九十六了」

作者 為永太郎兵衛・並木宗輔（終丁裏）

于時安永三年甲午八月朔日（終丁裏）

※初演は、寛保二年。通し本の開板は、安永三年まで遅れる。巻頭に一丁あって、表に「太夫豊竹越前少掾」、裏に「若竹東九郎」の姿絵を載せる。後摺本は、姿絵を欠く。これは初摺本。

0329（安于屋宇兵衛（大）・中山清七（江）・中島屋伊左衛門（江））

伊豆院宣源氏鏡 いずいんぜんげんじかがみ

〈七行〉終丁丁付「源九十五了」

作者 文耕堂・三好松洛・小川半平・竹田小出雲・千前軒（内題下）

元文六辛酉載正月十四日（終丁裏）

※中字十行本の内題表記は「伊豆院宣源氏鑑」。

▼ **0330**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

和泉式部軒端梅 → しきしま操軍記 しきしまみさおぐんき ラミヨ

伊勢平氏年々鑑 いせへいじねんねんかがみ

〈七行〉終丁丁付「伊九十一了」

作者竹田出雲（内題下）

※年記なし。

0829（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））**一谷嫩軍記** いちのたにふたばぐんき

〈七行〉終丁丁付「一百納」

作者 浅田一鳥・浪岡鯨児・並木正三・難波三蔵・豊竹甚六。故人並木宗輔（終丁裏）

宝暦元辛未天臘月十一日（終丁裏）

※同作七行本には、初板系統（終丁丁付「一九十七」）、三板（終丁丁付「一百納」）、四板（終丁丁付「百納」、終丁裏に「明和四年秋再板改正」とある）の、三種がある。初板系統には、初板（六十六丁表五行目「敦盛の志」と、再板（同「敦盛卿の志」）がある。四板には、未改修本（内題右肩に「明和四年丁亥秋改」とある）と、改修本（内題右肩の年記を削る）とがある。これは四板改修本。

0012（加島清助（大））**0932**（西沢九葉軒（大）・玉水源治郎（大）・紙

屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・加島屋清助（大））

0933（西沢九葉軒（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・玉水源治郎（大））

〈十行〉

作者 浅田一鳥・浪岡鯨児・並木正三・難波三蔵・豊竹甚六。故人並木宗輔（終丁裏）

宝暦元辛未天臘月十一日（終丁裏）

※同作十行本には、い本（終丁丁付「一七十内」。一四十八丁表六行目「心ざしにて」）、ろ本（「一七十納」。同「こゝろさしにて」）、は本（「一七十軸」。一四十七丁裏十行目「心ざしにて」）、に本（「一谷七十軸」。一谷四十七丁裏十行目「心ざしにて」）、ほ本（「一谷七十納」。一谷四十八丁裏一行目「心ざしにて」。享和二年板）、へ本（ほ本・享和二年本の覆刻本。作者連名を削除）がある。

【ろ本】 **0830**（菱屋治兵衛（京））【ほ本】 **0613**（菊屋七郎兵衛（京））**井筒業平河内通** いづつなりひらかわちがよい

〈七行〉終丁丁付「井八十七終」

作者近松門左衛門（内題下）

※年記なし。同作七行本には、未改訂本（四十九丁表一・二行目「心得ず・まず」）と、改訂本（同「心す・まず」）がある。これは未改訂本。

0599（奥付欠。終丁裏欠）**井筒屋源六恋寒晒** いづつやげんろくこいのかんざらし

角書「根元・根本」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「恋下十九」

作者 西沢一風・田中千柳（内題下）

※年記なし。題簽には「根元・根本／恋寒晒」とある。

▼ **0784**（正本屋九左衛門（大））**糸桜本町育** いとぎくらはほんちょうそだち

角書「姉は二十一・妹は二十」（題簽）

〈六行〉終丁丁付「本丁百納」

作者紀上太郎・補助達田弁二（終丁裏）

安永六酉年三月十一日（終丁裏）

※同作六行本には、未改訂本（二十五丁裏五・六行目「権・門方の付合」。八十二丁の次丁丁付「本丁八十■」）、改訂本（同「屋・敷方の付合」。同「本丁八十三」）がある。これは改訂本。

0331（大和屋吉兵衛（大）・小堀屋源助（大）・松本屋万吉（江）・上総屋利兵衛（江））

今川本領猫魔館 いまがわぼんりょうねこまたやかた
〈十行〉終丁丁付「今川七十了」

作者連名 文耕堂・三好松洛・浅田可啓・竹田小出雲・千前軒（終丁裏）

元文五庚申歳四月十一日（終丁裏）

0540（奥付欠）

0831（奥付欠）

0975（山木九兵衛（京）・山木九右衛門（大））

今盛恋緋桜 いまをさかりこいのひざくら

〈七行〉終丁丁付「今盛四十五畢」

作者 菅専助・梁塵軒・豊春助（終丁裏）

安永八己亥年十月十九日（終丁裏）

▼ **0332**（佐々井治郎右衛門（大）・山崎金兵衛（江）・鱗形屋孫兵衛（江））

妹背門松 → 染模様妹背門松 そめもよういもせのかどまつ ラミヨ

妹背山婦女庭訓 いもせやまおんなていきん

角書「十三鐘・絹懸柳」

〈七行〉終丁丁付「妹背山百畢」

作者連名 近松半二・松田ばく・栄善平・近松東南。

後見行年七十六歳三好松洛（終丁表）

明和八辛卯年正月廿八日（終丁表）

※同作七行本には、初板と再板（内題の上方に「再版」とある）がある。

【初板】 **0333**（奥付欠）

【再板】 **0541**（山本九葉亭（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・玉水源治郎（大））

〈十行〉終丁丁付「妹背山六十六終」

作者連名 近松半二・松田ばく・栄善平・近松東南。

後見行年七十六歳三好松洛（終丁裏）

明和八辛卯年正月廿八日（終丁裏）

0976（菊屋七郎兵衛（京））

入鹿大臣皇都諍 いるかだいじんみさとあらそい

角書「王代・実記」（題簽）

〈十行〉終丁丁付「入六十一終」

竹田出雲作（内題下）

寛保三歳亥四月六日（終丁裏）

0977（菱屋治兵衛（京））

色揚瀬川染 いろあげせがわぞめ

角書「昔八丈・後幕」（題簽）

〈六行〉終丁丁付なし（前丁「瀬川六十六」）

松貫四・吉田角丸（終丁裏）

安永五申年二月廿三日（終丁裏）

※同作六行本には、未改修本（四十九丁表二行目「マア夢所じや有ルまいがな。」、改修本（同「マア夢所しや有まいが」）がある。これは未改修本。

▼ **0334**（柏原屋佐兵衛（大）・駿河屋藤助（江）・上総屋利兵衛（江））

いろは蔵三組盃 いろはぐらみつぐみさかずき

角書「時代蒔絵・世話模様」

〈七行〉終丁丁付「いろは九十六畢」

作者 近松半二・近松金三・近松東南（終丁表）

安永貳癸巳歳七月廿八日（終丁表）

※同作七行本には、未改訂本（弐丁裏七行目「金沢（かなさわ）」）と、改訂本（同「金沢（さは）」）がある。これは未改訂本。

▼ **0542**（鱗形屋孫兵衛（江）・伝法屋吉九郎（大））

いろは日蓮記 → 日蓮記兎硯 にちれんきちごすずり ラミヨ

いろは物語 いろはものがたり

角書「弘法・大師」

〈七行〉終丁丁付「弘百三終」

作者佐川藤太（奥付）

文化四丁卯年二月廿三日（終丁裏）

▼ **0263**（松本平助（江）・天満屋源次郎（大）・天津屋治郎右衛門（大）・天満屋安兵衛（大）・和多屋喜兵衛（大））

▼ **0857**（松本平助（江）・天満屋源次郎（大）・天津屋治郎右衛門（大）・天満屋安兵衛（大）・和多屋喜兵衛（大））

初冠賤束帯 ういこうぶりしずのそくたい

角書「業平吾妻下・成平吾孀緘」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「初九十九大尾」

奥野栄治再撰・吉田文子（終丁裏）

安永四年乙未五月廿八日（終丁裏）

※のちに『増補河内通』と改題される。

▼0011 (三河屋久兵衛 (江))

宇賀道者源氏鑑 うがどうしゃげんじかがみ

〈七行〉終丁丁付「宇賀百三終」

福松陶芋選 (内題下)

宝暦九年巳卯孟春上浣 (終丁裏)

※読本浄瑠璃。

0934 (奥付欠)

右大将鎌倉実記 うだいしょうかまくらじつき

〈七行〉終丁丁付「記八十四了」

作者竹田出雲 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、未改訂本 (七丁表一行目「昼夜をわかつたず」。六十三丁の次丁丁付「記五十四」)、第一次改訂本 (六十三丁次丁丁付「記六十四」)、第二次改訂本 (七丁表一行目「時政にちうやをわかつたず」)がある。これは第二次改訂本。

0935 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

歌枕棗棠花合戦 うたまくらやまぶきかっせん

角書「北条早雲・三浦道寸」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「歌九十九終」

京春艸堂・大坂並木和輔/述 (内題下) 校合 戸田

吾文・松岡千助・岩瀬左門 (終丁裏)

延享三丙寅歳仲秋朔日 (終丁裏)

0543 (奥付欠)

写働足利染 うつしえすがたあしかがぞめ

〈七行〉終丁丁付「写九十八了」

作者連名 浅田一鳥・黒藏主・三津飲子・難波三藏・豊竹応律 (終丁裏)

宝暦七年丁丑正月廿六日 (終丁裏)

0936 (奥付欠)

浦島太郎倭物語 うらしまたろうやまもものがたり

〈七行〉終丁丁付「浦五ノ四大尾」

作者為永太郎兵衛 (内題下) 文者 浅田一鳥・豊岡珍平・為永千蝶 (終丁裏)

※年記なし。

▼1091 (西沢九左衛門 (大))

えぼし折 えぼしおり

〈七行〉板心「糸」「七十二」

※作者・年記なし。近松門左衛門作『烏帽子折』の

海賊板。

0264 (奥付欠。巻頭巻末欠)

烏帽子折 えぼしおり

〈八行〉「糸五十二」

※作者・年記なし。

0024 (奥付欠。丁付裁断)

絵本大功記 えほんたいこうき

〈七行〉終丁丁付「大功百十五納」

作者 当豊竹東竹田両座兼帯近松やなぎ・近松湖水軒・近松千葉軒 (終丁表)

寛政十一年未七月十二日 (終丁表)

※同作七行本には、初板系統 (終丁丁付「大功百十五納」)と、再板 (「太功百十六納」)がある。また初板系統には、未改訂本 (作者三人目「近松千葉軒」。巻末三丁丁付「太功百十四」「太功百十四」「大功百十五納」)、第一次改訂本 (「太功百十三」「太功百十四」「大功百十五納」)、第二次改訂本 (「千葉軒」)がある。これは初板第二次改訂本。

0544 (松本平助 (江)・今井七郎兵衛 (京)・玉置清七 (大))

0858 (松本平助 (江)・天満屋安兵衛 (大))

0859 (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

延喜帝秘曲琵琶 えんぎのみかどひきよくのびわ

〈七行〉終丁丁付「延八十四終」

作者紀甘谷 (内題下)

延享貳載乙丑孟夏上三日 (終丁裏)

▼1092 (天満屋源二郎 (大)・堺屋勘四郎 (大))

役行者大峰桜 えんのぎょうじゃおおみねざくら

〈七行〉終丁丁付「役百三終」

作者竹田外記。門人 近松半二・竹田文四 (終丁裏)

寛延四年辛未十月十七日 (終丁裏)

▼0273 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

奥州安達原 おうしゅうあだちがはら

〈七行〉終丁丁付「奥九十五治」

作者竹田和泉 (内題下) 千前軒門人 作者 近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛 (終丁表)

宝暦十二年壬午九月十日 (終丁裏)

※同作七行本には、初板(宝暦の年記のみ)と再板(宝暦の年記の左に「安政三年丙辰十月再刻」とある)がある。また初板には、未改訂本(貞任の子の名前「千代童」。太夫連名六人目「竹本喜美大夫」)、第一次改訂本(貞任の子の名前「清童」、四十二丁裏六行目のみ「名は千代童子といふにもせよ。」。連名六人目「竹本磯大夫」)、第二次改訂本(貞任の子の名前「清童」。連名六人目「竹本磯大夫」)がある。

▼【初板未改訂本】0885 (山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江))

【初板第二次改訂本】0886 (山本九菓亭(大)・玉水源治郎(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・紙屋与右衛門(大))、0887 (山本九菓亭(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・玉水源治郎(大))、0888 (山本九菓亭(大)・玉水源治郎(大)・紙屋与右衛門(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・加島屋清助(大))

奥州秀衡有髻罎 おうしゅうひでひらうはつのはなむこ

〈十行〉終丁丁付「奥州六十三」

作者並木宗輔(内題下)

※年記なし。

0335 (菊屋七郎兵衛(京))

応神天皇八白幡 おうじんてんのうやつのしらはた

〈七行〉終丁丁付「白九十六了」

作者文耕堂(内題下)

※年記なし。

▼0889 (山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大))

近江源氏先陣館 おうみげんじせんじんやかた

〈七行〉終丁丁付「館百畢」

作者 近松半二・八民平七・三好松洛・竹本三郎兵衛(終丁裏)

明和六己丑年十二月九日(終丁裏)
 ※同作七行本には、初板と再板(内題の上方に「再版」とある)がある。初板系統には、未改訂本(作者四人)、第一次改訂本(作者五人「作者 近松半二・八民平七・三好松洛・松田才二・竹本三郎兵衛」)、第二次改訂本(作者七人「作者 近松半二・八民平七・松田才二・三好松洛・竹田新松・近松東南・竹本三郎兵衛」)がある。再板は作者四人。

【初板第一次改訂本】0890 (山本九兵衛(京)・吉川宗兵衛(大)・鱗形屋孫兵衛(江))

【初板第二次改訂本】0891 (山本九兵衛(京)・吉川宗兵衛(大)・鱗形屋孫兵衛(江))、0892 (奥付欠)

〈十行〉終丁丁付「近江源氏六十六畢」

作者 近松半二・八民平七・松田才二・三好松洛・竹田新松・近松東南・竹本三郎兵衛(終丁裏)
 明和六己丑年十二月九日(終丁裏)

0908 (鶴屋喜右衛門(江)・鶴屋喜右衛門(京))

大塔宮囃鏡 おおとうのみやあさひのよろい
 角書「太平記・綱目」

〈七行〉終丁丁付「囃九十八了」

近松門左衛門添削 作者竹田出雲(内題下)

※年記なし。同作七行本には、初板(終丁丁付「囃八十八了」)と再板(終丁丁付「囃九十八了」)がある。また初板には、未改修本(内題下「近松門左衛門添削 作者 竹田出雲・松田和吉」。十三丁表四行目「語るも。」の文字譜「フシ」)、第一次改修本(十三丁表四行目「語るも。」の文字譜「中フシ」。板木差替に伴う変動)、第二次改修本(内題下「近松門左衛門添削 作者 竹田出雲」)がある。これは、再板。

※のちに享保十四年六月『新板大塔宮』、宝暦四年八月以前『太平記囃鏡』と改題される。

0832 (奥付欠。終丁欠)

〈十行〉終丁丁付「大たう五十七了」

近松門左衛門添削 作者 竹田出雲・松田和吉(内題下)

※年記なし。

0860 (菊屋七郎兵衛(京))

小栗判官車街道 おぐりはんがんくるまかいどう

〈七行〉終丁丁付「小八十九了」

作者 千前軒・文耕堂(内題下)

※年記なし。

0274 (山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江))

0893 (山本九菓亭(大)・玉水源治郎(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・紙屋与右衛門(大))

〈十行〉終丁丁付「小栗六十二了」

作者 千前軒・文耕堂(内題下)

※年記なし。

0978 (菱屋治兵衛 (京))

1093 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

お千代半兵衛 おちよはんべえ

角書「万代曾我・第二番目」

〈七行〉終丁丁付「萬代二三十六了」

文者 森羅万象・双木千竹 (奥付)

※年記なし。

▼0785 (松本屋万吉 (江)・上総屋利兵衛 (江))

男作五雁金 おとこだていつつかりがね

角書「江戸文七髻結・大坂文七紺屋」

〈七行〉終丁丁付「男八十六終」

作者竹田出雲掾 (内題下)

寛保二戌歳七月二日 (終丁裏)

▼0545 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

小野道風青柳硯 おののとうふうあおやぎすずり

〈七行〉終丁丁付「道百畢」

作者 竹田出雲・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・三好松洛 (終丁表)

宝曆四甲戌年十月三日 (終丁表)

※同作七行本には初板 (廿二丁裏一行目標題「第二」の下・空白) と、再板 (目標題「第二」の下・初段末の本文あり) がある。また初板には、模刻板 (丁付の枠および略称「道」を落とす) も残る。これは初板。

▼0894 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

〈十行〉

作者 竹田出雲・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・三好松洛 (終丁裏)

宝曆四甲戌年十月三日 (終丁裏)

※同作十行本には、い本 (終丁丁付「道七十畢」) と、ろ本 (終丁丁付「道七十」) がある。

【い本】0979 (菊屋七郎兵衛 (京))

【ろ本】0058 (菱屋治兵衛 (京)・鱗形屋孫兵衛 (江))

【ろ本】0909 (菊屋七郎兵衛 (京))

女蟬丸 おんなせみまる

〈十行〉終丁丁付「女五十五了」

作者 西沢一風・田中千柳 (内題下)

※年記なし。

1094 (菊屋七郎兵衛 (京)・菱屋治兵衛 (京))

会稽故脚錦 かいけいこきょうのにしき

角書「城州釜か瀨・摂州鎌が瀨」

〈七行〉終丁丁付「会百納」

作者 近松柳作・一ツ田車上 (終丁裏)

寛政五癸丑歳三月廿三日 (終丁裏)

※同行七行本には、未改修本 (五十四丁の次丁「会五十五ノ八」) と改修本 (同「会五十六」) がある。これは未改修本。

▼0336 (菊屋七郎兵衛 (京)・正本屋小兵衛 (大)・本屋卯之助 (大))

会稽多賀誉 かいけいたがのほまれ

角書「浅沢の杜若・吉原の夜桜」

〈七行〉終丁丁付「多賀百六納」

作者奈河七五三助 (終丁裏)

寛政九年巳四月廿三日 (終丁裏)

▼0275 (多田屋利兵衛 (江)・上総屋利兵衛 (江))

会稽宮城野錦繡 かいけいみやぎのにしき

角書「姉は全盛・妹は新造」

〈七行〉終丁丁付「宮百四納」

作者佐川藤太 (終丁裏)

文化式乙丑年十月三日 (終丁裏)

※初摺本には前見返しに「浄瑠璃太夫三味線役割」があり、後摺本では白紙となる。これは後摺本。

1095 (山本九葉亭 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・玉水源治郎 (大))

甲斐源氏桜軍配 かいげんじさくらぐんばい

〈七行〉終丁丁付「甲九十七了」

作者 浅田一鳥・黒藏主・三津飲子・難波三藏・豊竹応律 (終丁裏)

宝曆六年丙子閏十一月朔日 (終丁裏)

▼0276 (鱗形屋孫兵衛 (江)・西沢九左衛門 (大))

▼0337 (鱗形屋孫兵衛 (江)・西沢九左衛門 (大))

替唱歌糸の時雨 かえしょうがいとのしぐれ

角書「川崎屋彦三・小野村屋古今」

〈七行〉終丁丁付なし (前丁「糸五十四」)

作者近松半二 (内題下)

天明二年寅三月吉日 (終丁表)

▼0880 (鱗形屋孫兵衛 (江)・伝法屋吉九郎 (大))

加賀国篠原合戦 かがのくにしのはらがっせん

角書「白髪実盛・黒髪実盛」

〈七行〉終丁丁付「加百六了」

作者 竹田出雲・長谷川千四（内題下）

※年記なし。

0833（奥付欠）

加ゞ見山旧錦絵 かがみやまこきょうのにしきえ

角書「局岩藤・中老尾上」

〈七行〉終丁丁付「かゝ見山九十四」

作者容楊黛（終丁裏）

天明二壬寅年正月二日（終丁裏）

※同作七行本には、未改修本（終丁裏の出板予告：全文掲載）、第一次改修本（出板予告：部分掲載）、第二次改修本（出板予告：全文削除）がある。これは第一次改修本。

0546（西宮新六（江））

かゞみ山旧錦絵 かがみやまこきょうのにしきえ

角書「江戸・土産」（題籤）

〈七行〉「かゞみ山廿七終」

天明三年卯二月吉日（終丁裏）

※作者署名なし。江戸初演の同作の、大坂再演に際し六ツ目「鶴が岡」・七ツ目「長つぼね」の二段を刊行したもの。

0265（西宮新六（江）・寺田吉九郎（大）・正木屋清兵衛（大））

加々見山廓写本 かがみやまさとのおききがき

〈七行〉終丁丁付「鏡九十九納」

作者中村魚眼（終丁表）

寛政八丙辰年正月廿九日（終丁表）

▼ **0300**（今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・玉水源治郎（大））

▼ **0338**（今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・玉水源治郎（大））

柿本紀僧正旭車 かきのもとのきそうじょうあさひ

ぐるま

〈七行〉終丁丁付「柿九十三」

作者為永太郎兵衛（内題下）作者連名 浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴（終丁裏）

延享元閏逢困敦年九月十一奠（終丁裏）

▼ **0834**（西沢九左衛門（大））

〈十行〉終丁丁付「柿六十一終」

作者為永太郎兵衛（内題下）作者連名 浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴（終丁裏）

延享元閏逢困敦年九月十一奠（終丁裏）

0750（菊屋七郎兵衛（京））

重井筒容鏡 → 追善重井筒 ついぜんかさねいづつ ヲミヨ

累解脱打舗 かさねげだつのうちしき

〈七行〉「累百三終」

作者津打治兵衛（内題下）作者津打治兵衛 同連名 並木良輔・八州堂・三楽坊（終丁裏）

寛政四壬子年閏二月廿四日（終丁裏）

※『新板累物語』の改題本。『累解脱打舗』七行本には、未改修本（巻頭に出語り図・役割と序文を記す丁、巻末に役割と跋文を記す丁を備える）と、改修本（序跋文各丁がない）がある。これは改修本。

0301（西沢九葉軒（大）・玉水源治郎（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・紙屋与右衛門（大））

累解脱打舗 → 新板累物語 しんぱんかさねものがたり モミヨ

敵討優曇華龜山 かたきうちうききのかめやま

〈七行〉終丁丁付「敵龜九十六納」

司馬芝叟作（内題下）

寛政六年甲寅十月十九日（終丁裏）

※同作七行本には、未改修本（前見返しに「浄瑠璃大夫三味線役割」がある。五十一・五十二丁の板木：原板）、第一次改修本（前見返し白紙）、第二次改修本（五十一・五十二丁の板木：差替板）がある。これは第一次改修本。

0052（奥付欠）

0277（山本九葉亭（大）・玉水源治郎（大）・紙屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・加島屋清助（大））

敵討稚物語 かたきうちおさなものがたり

角書「金毗羅・御利生」

〈七行〉終丁丁付「稚七十五終」

竹田出雲掾（内題下）作者 近松半二・竹本三郎兵衛（終丁表）

明和元年申七月十五日（終丁表）

0051 (山本九兵衛 (京)・吉川宗兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

0071 (奥付欠。巻頭欠。「稚廿一」～「稚廿六」、「稚廿九」～「稚五十九」、「稚七十一」～「稚七十五終」のみ残る)。

敵討崇禪寺馬場 かたきうちそうぜんじばま

角書「古追善・今沙汰」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「寺八十三納」

作者 竹田小出雲・竹田滝彦 (内題下) 千前軒門人

作者 吉田冠子・近松半二・竹土丸・北窓後一・三好松洛 (終丁表)

宝暦八年戊寅三月十三日 (終丁裏)

0751 (山本九葉亭 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

▼ **0881** (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

敵討檻樓錦 かたきうちつづれのにしき

〈七行〉終丁丁付「錦七十了」

作者 文耕堂・三好松洛 (内題下)

※年記なし。

0278 (奥付欠)

0302 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

報讐天下茶屋 → 讐報春住吉 かたきうちはるのすみよし ヲミヨ

讐報春住吉 かたきうちはるのすみよし

角書「殿下・茶屋」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「住吉百終」

作者 兎角亭東喬 (終丁裏)

寛政八年丙辰正月二日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (作者 兎角亭東喬)、改修本 (作者 奈川支干助・松井亭門人簡東喬 (終丁裏)) がある。改修本には、包紙・題簽でのみ『報讐天下茶屋』とした改題本も出た。これは改修本 (改題本であるかは、改装のため未詳)。

0303 (奥付欠)

敵討操姿鏡 かたきうちみさおのすがたみ

角書「鎌倉・街道」

〈七行〉終丁丁付「操百十納」

作者 二代目松貫四・紀上太郎門弟紀中葉。補助樹下石上 (終丁裏)

享和二年壬戌五月五日 (終丁裏)

▼ **0882** (勝尾屋六兵衛 (大)・多田屋利兵衛 (江)・石渡利助 (江))

桂川恋の柵 → 曾根崎模様 そねざきもよう ヲミヨ

桂川連理柵 かつらがわれんりのしがらみ

角書「おはん・長右衛門」

〈七行〉終丁丁付「桂川五十納」

作者 菅専助 (終丁裏) 作者 近松半二誌 (奥付)

安永五丙申歳十月十五日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (四十丁に続く丁付「桂四十二」「桂四十二」)、第一次改修本 (「桂四十一」「桂四十二」)、第二次改修本 (「桂四十一」「桂四十一」) がある。奥付の作者署名は、第一次改修本の増摺過程で削除される。これは第一次改修本。

0254 (佐々井治郎右衛門 (大)・山崎金兵衛 (江)・鱗形屋孫兵衛 (江))

仮名手本忠臣蔵 かなでほんちゅうしんぐら

〈七行〉終丁丁付「忠九十九畢」

作者 竹田出雲・三好松洛・並木千柳 (終丁裏)

寛延元年辰八月十四日 (終丁裏)

※同作七行本には、初板 (終丁丁付「忠九十九畢」。「忠六十九」陰刻)、大坂再板 (終丁丁付「忠九十九畢」。「忠六十九」陽刻)、大坂三板 (終丁丁付「忠臣九十九畢」。道行「水口の」の節付と振り仮名:「中ウキン」「みなくち」。内題の上方に「再板」とある)、大坂四板 (終丁丁付「忠臣九十九畢」。道行「水口の」の節付と振り仮名:「中ウキ」「みなくち」。内題の上方に「再板」とある。嘉永三年再刻)、江戸再板 (「忠九十九畢」。内題の上方に「改写」とある) の五板がある。

【初板】 **0547** (奥付欠)

【大坂三板】 **0536** (奥付欠)、0840 (山本九葉亭 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・玉水源治郎 (大))

【大坂四板】 **1096** (山本九葉亭 (大)・玉水源次郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

〈十行〉

作者 竹田出雲・三好松洛・並木千柳（終丁裏）
寛延元年辰八月十四日（終丁裏）
※同作十行本には、京都イ本（終丁丁付「忠七十」）、京都ロ本（終丁丁付：板心「かな手本」「七十了」）、京都ハ本（終丁丁付「かな七十納」）、京都二本（終丁丁付「忠臣七十治」）、京都五板本（終丁丁付「忠臣七十終」。内題の上方に「再板」とある）、京都六板本（終丁丁付「忠臣七十納」。内題の上方に「再板」とある）、金沢未改修本（終丁丁付「忠臣七十納」。内題上方に「再板」とある）、金沢改修本（内題上方に「再板」とある。金沢未改修本の年記・作者を削除する）がある。

【京都ロ本】0910（奥付欠）

【京都ハ本】0753（鶴屋喜右衛門（江）・鶴屋喜右衛門（京））

【京都二本】0752（奥付欠）

【京都六板本】0754（菱屋治兵衛（京））、0883（菱屋治兵衛（京））

蒲冠者藤戸合戦 かばのかんじゃふじとがっせん
〈七行〉終丁丁付「蒲百終」

作者 並木宗助・安田蛙文（内題下）
※年記なし。

0755（奥付欠）

〈十行〉終丁丁付「蒲六十七了」

作者 並木宗助・安田蛙文（内題下）
※年記なし。

1097（菊屋七郎兵衛（京））

釜淵双級巴 かまがふちふたつどもえ
角書「七条・河原」

〈六行〉終丁丁付「釜七十三」

作者並木宗輔（内題下）
※年記なし。

0304（西沢九葉軒（大）・玉水源治郎（大）・紙屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・加島屋清助（大））

0756（加島清助（大））

鎌倉大系図 かまくらおおけいず
角書「北条屋形・蝦夷内裏」（題簽）

〈十行〉終丁丁付「系六十二」

作者為永太郎兵衛（内題下）文者 浅田一鳥・豊岡珍平・為永千蝶（終丁裏）
※年記なし。

0006（鱗形屋孫兵衛（江）・八文字屋八左衛門（京））

鎌倉三代記 かまくらさんだいき
〈十二行〉終丁丁付「三代二十五了」

作者紀海音（内題下）
※年記なし。

0050（今井七郎兵衛（京）・西沢九左衛門（大））

鎌倉三代記 かまくらさんだいき
角書「源頼家・源実朝」

〈七行〉終丁丁付「三代百五」

増補作者 千竹・鬼眼（奥付）

安永十年丑三月廿七日（終丁表）辛巳仲夏（奥付）
※『太平頭整飾』の、江戸での改題（一部新作）。同作七行本には、未改修本（「浄瑠璃役割」の第十ノ切「豊竹島太夫」）と改修本（第十ノ切「豊竹村太夫」）がある。改修本には、終丁裏の「浄瑠璃役割」を、前見返しに移動し、終丁表を後ろ見返しに貼付した無刊記本もある。

0841（大和屋吉兵衛（大）・小堀屋源助（大）・松本屋万吉（江）・上総屋利兵衛（江））

0884（綿屋丑助（大）・松本屋万吉（江）・上総屋利兵衛（江））

鎌倉三代記 → 花飾三代記 はなかざるさんだいき
き モミヨ

鎌倉比事青砥銭 かまくらひじあおとぜに
〈十行〉終丁丁付「青六十五了」

作者安田蛙文（内題下）
※年記なし。

1098（菊屋七郎兵衛（京））

紙子仕立両面鑑 かみこじたてりょうめんかがみ
角書「すけ六・あげまき」（十行）

〈十行〉終丁丁付「紙子五十七終」

作者菅専助（終丁裏）
明和五年戊子臘月廿一日（終丁裏）

0980（菊屋七郎兵衛（京））

詩近江八景 からうたおうみばっけい
角書「伊勢平太清盛・陸奥太郎義朝」
〈七行〉終丁丁付「詩百壹終」

作者為永太郎兵衛（内題下）作者連名 浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴（終丁裏）
延享二乙丑年二月廿七日（終丁裏）
▼0757（西沢九左衛門（大））

苧萱桑門築紫鞆 かるかやどうしんつくしのいえづと
〈七行〉終丁丁付「苧九十一」
作者 並木宗輔・並木丈輔（内題下）
※年記なし。同作七行本には、初板（終丁丁付「苧九十一」）と再板（「苧萱九十三畢」）がある。初板には、未改修本（内題下作者署名）、改修本（内題下「座本豊竹越前少掾」と埋木）がある。これは初板改修本。

0279（吉文字屋治郎兵衛（江）・万屋仁右衛門（京））
〈十行〉終丁丁付「苧六十五了」
作者並木 宗輔・丈輔（内題下）
※年記なし。なお中字十行本の内題は『苧萱桑門築紫鞆』とあって、七行本とは用字が異なる。
0911（鶴屋喜右衛門（江）・鶴屋喜右衛門（京））

官軍一統志 かんぐんいっとうし
〈七行〉終丁丁付「官九十納」
作者黒藏主（終丁裏）
宝暦十四歳甲申四月十日（終丁裏）
▼0537（正本屋小兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））
〈十行〉終丁丁付「官軍七十治」
作者黒藏主（終丁裏）
宝暦十四歳甲申四月十日（終丁裏）
0981（奥付欠）

関八州繫馬 かんはっしゅうつなぎうま
〈七行〉終丁丁付「馬八十九了」
作者近松門左衛門（内題下）
※年記なし。同作七行本には、未改修本（十二丁裏四行目「天（ま）の」。廿八丁表二行目「おやかや」）、第一次改修本（廿八丁表二行目「おろかや」）、第二次改修本（十二丁裏四行目「天（あま）の」）がある。これは第一次改修本。
0602（奥付欠）
〈十二行〉終丁丁付「馬卅三了」
作者近松門左衛門（内題下）
※年記なし。
0034（奥付欠。巻末欠）

鬼一法眼三略巻 きいちほうげんさんりゃくのまき
〈七行〉終丁丁付「鬼九十六了」
作者 文耕堂・長谷川千四（内題下）
※年記なし。
0538（奥付欠）

祇園女御九重錦 ぎおんによごこのえにしき
角書「三十三間堂・平太郎縁起」
〈十行〉終丁丁付「九重七十治」
作者 若竹笛躬・中邑阿契（終丁裏）
宝暦拾歳庚辰臘月十一日（終丁裏）
0758（奥付欠。巻末欠、「九重六十七」まで）

九州与次兵衛灘 きゅうしゅうよじべいがせと
角書「朝鮮・細見」
〈十行〉終丁丁付「与次兵衛灘六十二了」
作者 竹本三郎兵衛・中邑阿契（終丁裏）
明和八辛卯年正月廿三日（終丁裏）
0823（菊屋七郎兵衛（京））

京土産名所井筒 きょうみやげめいしょのいづつ
〈十行〉終丁丁付「京五十八了」
作者長谷川千四（内題下）
※年記なし。同作七行本はのちに『業平男今様井筒』と改題されるが、十行本の改題は未見。
0280（鶴屋喜右衛門（京））

記録曾我玉笄鬘 きろくそがこうがいわげ
〈七行〉終丁丁付・板心「曾」「七十四」
作者戸川不鱗（内題下）作者紀海音（奥付）
※年記なし。内題「玉笄鬘」に「かうかいわけ」と振り仮名がある。
0539（奥付欠）

楠昔断 くすのきむかしばなし
角書「祖父は山へ柴刈に・祖母は川へ洗濯に」
〈七行〉終丁丁付「楠九十九大尾」
作者 並木千柳・三好松洛・竹田小出雲（終丁裏）
延享三孟春十四日（終丁裏）
0982（山本九葉亭（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・玉水源治郎（大））
〈十行〉終丁丁付「楠七十大尾」
作者 並木千柳・三好松洛・竹田小出雲（終丁裏）
延享三孟春十四日（終丁裏）

1110（奥付欠。巻頭巻末欠、「楠三」～「楠六十九」の次丁表まで）

工藤左衛門富士日記 くどうさえもんふじにつき
〈七行〉終丁丁付「富百六了」。

作者竹田出雲（内題下）

※年記なし。

0842（奥付欠。終丁欠）

久米仙人吉野桜 くめのせんになよしのざくら
〈十行〉終丁丁付「久米六十一了」

作者為永太郎兵衛（内題下）

寛保三龍集昭陽大淵献年秋八月十五日（終丁裏）

1099（鶴屋喜右衛門（京））

1100（鶴屋喜右衛門（京））

車還合戦桜 くるまがえしかっせんざくら
角書「太平記・住吉巻」

〈七行〉終丁丁付「車九十三了」

作者文耕堂（内題下）

※年記なし。

▼0292（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

軍術出口柳 ぐんじゅつでぐちのやなぎ
〈七行〉終丁丁付「出口百弍畢」

作者 菅専助・安田阿契・若竹十九・若竹笛躬（終丁裏）

安永四乙未年正月廿九日（終丁裏）

▼0945（正本屋小兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

軍法富士見西行 ぐんぼうふじみさいぎょう
〈七行〉終丁丁付「西百終」

作者 並木千柳・小川半平・竹田小出雲（終丁裏）

延享二乙丑年二月十三日（終丁裏）

0946（山本九兵衛（京）・山崎金兵衛（江）・鱗形屋孫兵衛（江）・天満屋源治郎（大））

0947（奥付欠）

傾城阿古屋の松 けいせいあこやのまつ
主馬判官盛久・佐々木三郎盛綱（題簽）

〈七行〉終丁丁付「阿八十二了」

作者 近松半二・竹本三郎兵衛（終丁表）

宝曆拾四年甲申正月十七日（終丁表）

0896（山本九兵衛（京）・吉川宗兵衛（大）・鱗

形屋孫兵衛（江））

傾城阿波の鳴門 けいせいあわのなると

〈十行〉終丁丁付「阿波鳴門六十五納」

作者連名 近松半二・八民平七・寺田兵藏・竹田文吉・竹本三郎兵衛（終丁裏）

明和五年戊子六月朔日（終丁裏）

0759（菊屋七郎兵衛（京））

けいせい扇富士 → けいせい箱根育 けいせいはこねそだち ラミヨ

契情小倉の色紙 けいせいおぐらのしきし
角書「忠臣名譽・白狐靈徳」

〈七行〉終丁丁付「小倉百卅納」

作者 山田案山子・春の家有斎（終丁裏）

天保十一庚子年正月吉日（終丁裏）

▼0897（塩屋喜兵衛（大））

けいせい恋飛脚 けいせいこいのひきゃく

〈七行〉終丁丁付「飛脚五十畢」

作者 菅専助・若竹笛躬（終丁裏）

安永弍癸巳年十二月廿三日（終丁裏）

0898（西沢九葉軒（大）・玉水源治郎（大）・紙屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・加島屋清助（大））

0899（奥付欠）

けいせい箱根育 けいせいはこねそだち
角書「御所産・大磯児」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「扇九十五大尾」

故人竹田千前軒。作者 玉泉堂・吉田仲二（終丁裏）
寛政十年戊午八月（終丁裏）

※『けいせい扇富士』の改題本。『けいせい扇富士』は、『けいせい箱根育』として三度（寛政九年三月、寛政十年八月、寛政十一年八月）、『増補会稽山』として一度（年次不明）の、四度の改題・増摺を数える。これは寛政十年本。

0900（上総屋利兵衛（江））

けいせい反魂香 けいせいはんごんこう

〈七行〉終丁丁付「反三十四了」

※年記なし。同作十行本には、い本（終丁丁付「反三十四了」）、ろ本（終丁丁付裁断のため未詳。丁題「はんこん」

「はんごんかう」がある。これはい本。

0604 (奥付欠。江戸板大字本の奥付「西沢九左衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江)」を誤綴)

傾城枕軍談 けいせいまくらぐんだん

角書「都変名島勘左衛門・故郷呼名七草四郎」

〈七行〉終丁丁付「枕九十二了」

作者 並木千柳・三好松洛・竹田出雲(終丁裏)

延享四年卯八月廿三日(終丁裏)

▼**0901** (山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大))

〈十行〉終丁丁付「枕七十終」

作者 並木千柳・三好松洛・竹田出雲(終丁裏)

延享四年卯八月廿三日(終丁裏)

0251 (奥付欠)

傾城無間鐘 けいせいむげんのかね

〈十二行〉終丁丁付「無廿八了」

作者紀海音(内題下)

※年記なし。

1101 (奥付欠)

粧水絹川堤 けわいみずきぬがわづつみ

角書「正保・四年」

〈七行〉終丁丁付「絹川五十一終」

作者東勇助(終丁裏)

于時明和五戊子歳相月中五日(終丁裏)

※同作七行本には、初板(終丁丁付「絹川五十一終」と再板(終丁丁付「絹川五十畢」)がある。初板には、未改修本(十丁の前丁丁付:「絹川九、」。二十一丁表四行目「はりや／＼と」)、第一次改修本(二十一丁表四行目「はりや／＼と」)、第二次改修本(十丁の前丁丁付:丁数削除)がある。

再板は、はじめ下巻のみで単行され(廿壹丁表一行目標題「下の巻 絹川村の段 再版」)、次に上巻を補った改題本『下総国累説』が出て、さらに原題『粧水絹川堤』へと再改題したものの、三次を経る。

▼【初板未改修本】**0903** (鱗形屋孫兵衛(江)・森川豊助(大))

【初板第二次改修本】**0902** (鱗形屋孫兵衛(江)・森川豊助(大))

源家七代集 げんけしちだいしゅう

角書「前太平記・卅九卷目」

〈七行〉終丁丁付「源九十六了」

作者 並木宗助・安田蛙文(内題下)

※年記なし。

0904 (奥付欠)

源氏大草紙 げんじおおぞうし

〈七行〉終丁丁付「源氏九十大尾」

福内鬼外戯作(終丁裏)

明和七年庚寅八月十九日(終丁裏)

1321 (奥付欠)

源平布引滝 げんぺいぬのびきのたき

角書「待宵侍従・優美藏人」

〈七行〉終丁丁付「布九十五了」

作者 並木千柳・三好松洛(終丁裏)

寛延貳年己十一月廿八日(終丁裏)

▼**0824** (山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江))

0905 (山本九葉亭(大)・玉水源治郎(大)・紙屋与右衛門(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・加島屋清助(大))

0906 (奥付欠)

源平鶴鳥越 げんぺいひよどりごえ

角書「寿永楓・元暦梅」

〈十行〉終丁丁付「雅鳥越六十三了」

作者連名 豊竹万三・菅専助・中邑阿契・八民平七・豊竹応律(終丁裏)

明和七庚寅歳九月十九日(終丁裏)

0010 (菱屋治兵衛(京)・鱗形屋孫兵衛(江))

恋女房染分手綱 こいにようぼうそめわけたづな

角書「振袖のお乳人・留袖の招姉」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「恋百五納」

作者 吉田冠子・三好松洛(終丁裏)

寛延四年辛未二月朔日(終丁裏)

※同作七行本には、未改修本(七十丁丁付の枠・飾り罫)、第一次改修本(七十丁丁付の枠・飾りなし(単なる長方形。一部板木差替あり)、第二次改修本(従前の「由留木」を、埋木で「結城」と改訂)がある。これは未改修本。

0912 (奥付欠)

〈十行〉終丁丁付「恋七十治」

作者 吉田冠子・三好松洛(終丁裏)

寛延四年辛未二月朔日(終丁裏)

※同作十行本には、い本（終丁丁付「恋七十治」、ろ本（終丁丁付「恋七十詔」）がある。これはい本。

0825（菊屋七郎兵衛（京））

恋伝授文武陣立 こいのでんじゅぶんぶのじんだて
〈七行〉終丁丁付「陣立九十五納」

作者 菊水軒・奈川七五三助（終丁表）

寛政二年戊十一月十五日（終丁表）

※同作七行本には「六つ目」の丁付（四十一丁に続く十三丁）について、未改修本、第一次改修本、第二次改修本がある。これは第二次改修本。

【未改修本】「陣立■」ノ壺、以下丁題省略、「ノ二」「ノ三」「ノ四」「（丁数なし）」「六」「ノ七」「ノ八」「（丁数なし）」「陣立五十一」「陣立ノ十一」「陣立五十三」「陣立五十四」。

【第一次改修本】「陣立■」ノ壺、以下丁題省略、「ノ二」「ノ三」「ノ四」、「五」（ノド下部）、「六」「ノ七」「ノ八」、「（丁数なし）」、「陣立五十一」「陣立ノ十一」「陣立五十三」「陣立五十四」。

【第二次改修本】「陣立■」ノ壺、以下丁題省略、「ノ二」「ノ三」「ノ四」、「陣立四十六」「陣立四十七」「ノ七」「ノ八」、「陣立五十」「陣立五十一」「陣立ノ十一」「陣立五十三」「陣立五十四」。

0913（山本九葉亭（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・玉水源治郎（大））

1102（加島清助（大））

恋娘昔八丈 こいむすめむかしはちじょう

〈六行〉終丁丁付「八丈六十五尾」

作者 松貫四・吉田角丸（終丁裏）

安永四年未九月二十五日（終丁裏）

※書誌は未完本に拠る。まず五冊目までの未完本が刊行され、後続二段「評議」「鈴が森」を追加して完本となる。

※同作の諸本には、段ごとに板木の異同が多い。福田祐子氏『『恋娘昔八丈』の諸本』（『国文目白』第40号、2001年所収）に、詳細な整理が行われている。詳しくは福田論文に付かれないが、当該本は福田氏の調査に漏れる新出本で、福田氏分類によると「新太夫5」に異なり、「折太夫1」に近いが、これに先行する本と知られた。

0826（終丁丁付「鈴十二了」。伝法屋吉九郎（大）・中島屋伊左衛門（江）・中山清七（江））

甲賀三郎窟物語 こうがのさぶろういわやものがたり
〈七行〉終丁丁付「甲八十九了」

作者 竹田出雲・文耕堂（内題下）

※年記なし。

▼1103（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

〈十行〉終丁丁付「甲六十五了」

作者 竹田出雲・文耕堂（内題下）

※年記なし。

0914（菱屋治兵衛（京））

弘徽殿鶉羽産家 こうきでんうのはのうぶや

〈七行〉終丁丁付「花九十終」

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。

0044（奥付欠）

極彩色娘扇 ごくさいしきむすめおうぎ

角書「朝比奈藤兵衛・喧嘩屋五郎右衛門」

〈七行〉終丁丁付「娘扇百納」

竹田出雲（内題下）千前軒門人 作者 二歩堂・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終丁表）

宝暦拾歳庚辰七月廿一日（終丁表）

▼1104（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

〈十行〉終丁丁付「娘扇七十納」

竹田出雲（内題下）千前軒門人 作者 二歩堂・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終丁裏）

宝暦拾歳庚辰七月廿一日（終丁裏）

0760（菱屋治兵衛（京））

国性爺合戦 こくせんやかっせん

〈七行〉終丁丁付

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。同作七行本には、山本板初板（終丁丁付「国九十」）、山本板再板（「大明百三終」）、他書肆板・い本（板心「国」「九十終」）、他書肆板・ろ本（板心「こく」「九十一」）がある。また山本板再板には、未改修本（「きうせんさん」10丁）、第一次改修本（「きうせんざん」9丁。板木差替）、第二次改修本（元に戻した板）がある。

【山本板初板】0266（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

【山本板再板未改修本】0045 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))、0605 (山本九葉亭 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・玉水源治郎 (大))

【山本板再板第二次改修本】1331 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

国性爺後日合戦 こくせんやごにちかっせん

〈七行〉終丁丁付「後日百終」。

作者 近松門左衛門 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、山本板初板 (丁付「後日一」～「後日百終」。九丁裏一行目標題「よめいりしき三こん」あり)、山本板再板 (丁付「初一」～「初二」,「二ノ壺」～「二ノ二十」,「三ノ一」～「三ノ二十一」,「後日七十六」～「後日百終」七丁裏三行目・標題「よめいりしき三こん」なし)、他書肆板・い本 (終丁丁付「国後九十九了」)、他書肆板・ろ本 (板心「後日」「百終」)がある。

【山本板初板】0019 (奥付欠)

【他書肆板・い本】0606 (奥付なし。「国後五十一」～「国後七十四」まで)

後三年奥州軍記 ごさんねんおうしゅうぐんき

〈七行〉終丁丁付「後九十九了」

作者 並木宗助・安田蛙文 (内題下)

※年記なし。

1105 (鱗形屋孫兵衛 (江)・西沢九左衛門 (大))

腰越状 四段目・丸一段 こしごえじょう よだん

めまるいちだん

〈七行〉終丁丁付「腰四ノ十六畢」

明和七庚寅年正月十五日 (終丁裏)

※作者署名なし。『南蛮鉄後藤目貫』の改題本。『義経腰越状』未完本 (「第三」まで) に続く、四段目のみを単行したもの。のちに当該単行本の、前に道行、あとに五段目を加えて、未完改修本と合わせ、完本が成る。

0957 (奥付欠)

腰越状四段目丸一段 → 義経腰越状 よしつねこ

しごえじょう モミヨ

御所桜堀川夜討 ごしょざくらほりかわようち

〈七行〉終丁丁付「御所九十二了」

作者 文耕堂・三好松洛 (内題下)

※年記なし。

▼1078 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

▼1079 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

古戦場鐘懸の松 こせんじょうかねかけのまつ

角書「源頼朝・源義経」

〈七行〉終丁丁付「鐘九十六納」

竹田出雲 (内題下) 千前軒門人 作者 二歩軒・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛 (終丁表)

宝暦十一年辛巳十一月廿日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (四十五丁裏五行目・六十五丁裏四行目ともに「將軍」、第一次改修本 (四十五丁裏五行目「大將」、六十五丁裏四行目「將軍」、第二次改修本 (四十五丁裏五行目・六十五丁裏四行目ともに「大將」)がある。これは第二次改修本。

1080 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

小袖組貫練門平 こそでぐみかねらもんべい

角書「下関女歌舞妓・上関男歌舞妓」

〈七行〉終丁丁付「貫九十二了」

作者 竹田出雲・吉田冠子・中邑閨助・近松半二・三好松洛 (終丁表)

宝暦四甲戌年四月十七日 (終丁表)

▼1081 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

碁太平記白石噺 ごたいへいきしらいしばなし

角書「姉は宮ぎの・妹はしのぶ」

〈七行〉終丁丁付なし (前丁「白石百三」)

第壹紀上太郎・第二容揚黛・第三焉鳥旭・第四紀上太郎・第五紀上太郎・第六鳥亭焉馬・第七鳥亭焉馬・第八三津環・第九紀上太郎・第十紀上太郎・第十一紀上太郎 (終丁裏)

安永九年庚子正月二日 (終丁表)

※同作七行本には、初板 (六十五丁裏五行目「旅人の」の「の」にキズがある)と、再板 (同「の」にキズがない)がある。また初板には、未完本 (本文「第八」まで。「白石百三」と、完本 (本文「第十一」まで。「白石百廿四」)がある。再板には、未改修本 (初板と同じく、年記「安永九年…」)と、改修本 (埋木で「弘化三年丙午九月再板」と改める)とがある。

【初板未完本】0915 (奥付欠)

【初板完本】1082 (西宮新六 (江))

後太平記瓢実録 ごたいへいきひさごじつろく

〈十行〉終丁丁付「瓢六十三了」

作者 菅専助・若竹笛躬 (終丁裏)

于時安永元年壬辰十二月廿四日 (終丁裏)

0827 (菱屋治兵衛 (京)・鱗形屋孫兵衛 (江))

五天竺 ごてんじく

角書「玄奘三蔵の経取・釈迦如来の出山・孫悟空の仙術」

〈七行〉終丁丁付「五天竺百三納」

作者 佐川藤太・吉田新吾・近松梅枝軒 (終丁裏)

文化十三丙子年八月朔日 (終丁裏)

1083 (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

嬬山姥 こもちやまうば

〈七行〉終丁丁付「山姥七十六了」

近松門左衛門作 (内題下)

※年記なし。同作の初板は八行本。七行本はいずれも重板。同作七行本には、山本板 (終丁丁付「山姥七十六了」)、他書肆・京都板 (終丁丁付「山六十九了」)、他書肆・大坂板 (終丁丁付・板心「山」▲八十四)がある。これは山本板。

0607 (奥付欠)

根元曾我 こんげんそが

〈七行〉終丁丁付「根六十」

※作者署名・年記なし。

0046 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

姻袖鏡 こんれいそでかがみ

角書「菊池・大友」

〈七行〉終丁丁付「姻九十二治」

千前軒門人 作者 近松半二・三好松洛・竹田因幡・竹田小出・竹田平七・竹本三郎兵衛 (終丁表)

明和弐年乙酉九月十二日 (終丁表)

▼1084 (山本九兵衛 (京)・吉川宗兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

嵯峨天皇甘露雨 さがてんのうかんろのあめ

〈七行〉終丁丁付「甘露八十九了」

近松門左衛門作 (内題下)

※年記なし。

0033 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

相模入道千疋犬 さがみにゆうどうせんびきいぬ

〈七行〉終丁丁付「さか九十一終」。

近松門左衛門作 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、初板 (終丁丁付「さか九十一終」)、海賊板 (終丁丁付・板心「千疋」「九十)がある。これは初板。

0608 (奥付欠)

魁鐘岬 さきがけかねのみさき

角書「勇将兼道・猛将真鳥」

〈七行〉終丁丁付「魁九十三畢」

作者 菅専助・若竹笛躬・豊芦州 (終丁裏)

明和七庚寅年蠟月十五日 (終丁裏)

0569 (奥付欠。別本の中字本奥付「鶴屋喜右衛門 (江)・鶴屋喜右衛門 (京)」を誤綴)

▼0761 (正本屋小兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

桜御殿五十三駅 さくらごてんごじゅうさんつき

角書「亭主は東山殿・上客は一休禅師」

〈十行〉終丁丁付「桜御殿六十五納」

作者連名 近松半二・栄善平・寺田兵蔵・松田ばく。後見三好松洛 (終丁裏)

明和八辛卯年十二月廿九日 (終丁裏)

0916 (海老屋伊三郎 (京)・鶴屋喜右衛門 (京)・鶴屋喜右衛門 (江))

0948 (菊屋七郎兵衛 (京))

桜姫賤姫桜 さくらひめしずのひめざくら

角書「清水・清源」

〈七行〉終丁丁付「桜姫九十六納」

作者連名 若竹笛躬・豊竹応律・中邑阿契 (終丁裏)

宝暦十年庚辰三月十一日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (九十五丁裏二行目「芦原かや原」の文字譜「ナヲス サハリ)と改修本 (同「道具屋)がある。これは未改修本。

▼0267 (鱗形屋孫兵衛 (江)・西沢九左衛門 (大))

▼0868 (鱗形屋孫兵衛 (江)・西沢九左衛門 (大))

桜姫操大全 → 振袖操大全 ふりそでみさおたいぜん ヲミヨ

桜姫花洛鑑 さくらひめみやこかがみ

角書「淀継橋・帯取池」

〈七行〉終丁丁付「桜百三納」

作者佐藤太（終丁裏）作者 佐川藤太・梅枝軒（奥付）

文化四丁卯年九月十日（終丁裏）文化四年卯九月吉日（奥付）

▼ **0786**（西宮屋新六（江）・菊屋七郎兵衛（京）・和多屋喜兵衛（大））**薩摩歌妓鑑** さつまうたげいこかがみ

角書「おまん源五兵衛・さゝの三五兵衛」

〈七行〉終丁丁付「妓八十八終」

千前軒門人 作者 吉田冠子・近松景鯉・竹田小出雲・近松半二・三好松洛（終丁表）

宝暦七年丁丑九月晦日（終丁裏）

1085（奥付欠。終丁欠、半丁補写あり）**廓景色雪の茶会** さとげしきゆきのちゃのゆ

角書「石高は千五百・冊数は四十七」

〈七行〉終丁丁付「雪百納」

作者 若竹笛躬・丹青堂・梅野下風（終丁表）

天明七丁未九月廿六日（終丁表）

※同作七行本には、未改修本（七十五丁に続く十丁の丁付・丁数未刻）、改修本（丁数既刻）がある。これは改修本。

1086（奥付欠）**廓色上** さとのいろあげ

角書「小いな・半兵衛」

〈七行〉終丁丁付「色上三十畢」

作者八民平七（内題下）

于時明和五戊子歳十一月十九日（終丁表）

※同作七行本には、未改修本（太夫連名の竹本綱太夫の肩書「竹本義太夫座再興座本」と、改修本（再興の文字を削り、肩書「竹本義太夫座 座本」と改める）がある。

▼【未改修本】**0843**（山本九兵衛（京）・吉川宗兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））【改修本】**1087**（山本九兵衛（京）・鱗形屋孫兵衛（江）・天満屋源治郎（大））**狭夜衣鴛鴦剣翹** さよごろもおしのつるぎば

〈七行〉終丁丁付「狭百」

作者並木宗輔（内題下）

※年記なし。

0570（奥付欠）▼ **1088**（西沢九左衛門（大））**小夜中山鐘由来** さよのなかやまつりがねのゆらい

角書「常陸帯・夜啼石」

〈十行〉終丁丁付「小夜六十三納」

作者 近松半二・三好松洛・竹田伊豆・並木永輔・竹田小出・竹田平七・竹本三郎兵衛（終丁裏）

明和三年丙戌七月十八日（終丁裏）

0917（奥付欠）**三軍桔梗原** さんぐんききょうがはら

角書「甲斐輕薄兒・信濃歌舞女」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「三ノ八十五終」

作者桜井頼母（内題下）

延享貳乙丑載正月十二日（八十五丁表）

※同作七行本には、終丁裏に作者連名「春艸堂・戸田吾文・松岡千助・岩瀬左門・文瀾堂」を加えた改修本もある。これは未改修本。

▼ **0787**（天満屋源二郎（大）・堺屋勘四郎（大））**三国無双奴請状** さんごくぶそうやっこうけじょう

〈七行〉終丁丁付「請状百十五納」

作者連名 近松東南・安田阿契・若竹笛躬（終丁裏）
作者近松半二誌（奥付）

安永五丙申歳四月三日（終丁裏）

※同作七行本には、未改修本（三十七丁裏二行目「三千や」と改修本（同「三千人や」。ほかに振り仮名の増訂多数）がある。また後摺本には、奥付の作者署名がない。これは改修本（奥付署名あり）。

0788（佐々井治郎右衛門（大）・山崎金兵衛（江）・鱗形屋孫兵衛（江））**1089**（佐々井治郎右衛門（大）・山崎金兵衛（江）・鱗形屋孫兵衛（江））

〈十行〉終丁丁付「奴請状七十納」

作者連名 近松東南・安田阿契・若竹笛躬（終丁裏）
安永五丙申歳四月三日（終丁裏）**0008**（菊屋七郎兵衛（京））**三拾石艦始** さんじっこくよぶねのはじまり

角書「源八涉・平太堤」

〈七行〉終丁丁付「三九十六納」

作者やなぎ事近松柳作（終丁裏）

寛政四壬子歳五月廿二日 (終丁裏)

※『三拾石燈始』は、はじめ三冊目までで初板された(『新舞台咲分牡丹』所収。この時、未完)。寛政四年本は、後続段を補い、完本としたもの。

また寛政四年本には、巻末に跋・役割を載せた一丁をもつ本と、持たない本とがある。

▼0281 (巻末丁あり。菊屋七郎兵衛 (京)・正本屋小兵衛 (大)・本屋卯之助 (大))

1090 (巻末丁なし。西沢九葉軒 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・玉水源治郎 (大))

三莊大夫五人嬢 さんしょうだゆうごにんむすめ

〈七行〉終丁丁付「夫百五了」

作者竹田出雲 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、未改修本(廿四丁裏六行目「くらのかみ」、五十六丁の次丁標題「粟の段夢物狂」、第一次改修本(廿四丁裏六行目「くらの進」、第二次改修本(五十六丁の次丁標題「粟(あは)の段(だん)夢物狂(ゆめものぐる)ひ)がある。これは第一次改修本。

0869 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

〈十行〉終丁丁付「夫七十五了」

作者竹田出雲 (内題下)

※年記なし。

1062 (奥付欠)

山柎太夫葎原雀 さんしょうだゆうよしわらすずめ

〈十二行〉終丁丁付「よし原廿二了」

※作者・年記なし。内題下に「豊竹上野少掾」とあるのみ。同作十二行本には、い本(終丁丁付「よし原廿二了」。大坂板)、ろ本(終丁丁付「よし原廿二了」。京都板)がある。これは、ろ本。

1063 (奥付欠)

しきしま操軍記 しきしまみさおぐんぎ

角書「咒文の陣取・名歌の初恋」

〈七行〉終丁丁付「操九十七畢」

作者 豊竹応律・並木斎治 (終丁裏)

明和二年乙酉三月十六日 (終丁裏)

※のちに江戸で『和泉式部軒端梅』と改題・再演される。

0918 (正本屋小兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

騷方武士鑑 しつけがたさむらいかがみ

〈七行〉終丁丁付「騷方九十五畢」

作者連名 近松半二・松田ばく・寺田兵蔵・栄善平・竹本三郎兵衛 (終丁表)

明和第九壬辰歳四月廿八日 (終丁表)

0571 (山本九兵衛 (京)・吉川宗兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

〈十行〉終丁丁付「武士鑑六十五畢」

作者連名 近松半二・松田ばく・寺田兵蔵・栄善平・竹本三郎兵衛 (終丁表)

明和第九壬辰歳四月廿八日 (終丁表)

0572 (菱屋治兵衛 (京)・鱗形屋孫兵衛 (江))

四天王寺稚木像 してんのうじおさなもくぞう

角書「聖徳太子・守屋大臣」

〈七行〉終丁丁付「木像百畢」

作者連名 近松半二・三好松洛・竹田文吉・竹田小出・八民平七・竹本三郎兵衛 (終丁裏)

明和四年丁亥五月六日 (終丁裏)

▼0762 (山本九兵衛 (京)・吉川宗兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

四天王寺伽藍鑑 してんのうじがらんかがみ

角書「聖徳太子・守屋大臣」

〈七行〉終丁丁付「四天王九十九了」

作者佐川藤太 (内題下) 吉田新吾 (終丁裏)

文化九年申四月吉日 (終丁裏)

▼0573 (松本平助 (江)・菊屋七郎兵衛 (京)・勝尾屋六兵衛 (大)・天満屋安兵衛 (大)・天満屋源次郎 (大))

持統天皇歌軍法 じとうてんのううたぐんぼう

〈七行〉終丁丁付「歌九十四終」

近松門左衛門作 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、山本板(終丁丁付「歌九十四終」、正本屋仁兵衛板(板心「持天」「九十七)がある。山本板には、未改修本(六十五丁表七行目「忍びのの緒」、改修本(同「忍びの緒)がある。これは山本板改修本。

0026 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

下総国累説 → 粧水絹川堤 けわいみずきぬがわづつみ ヲミヨ

釈迦如来誕生会 しゃかによらいたんじょうえ

〈七行〉終丁丁付「誕生九十四了」

近松門左衛門作 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、未改修本(二十七丁裏二行目「つがひ／＼は」、二十八丁裏三行目「フシ ちゞの」)、改修本(二十七ウ2「つがい／＼は」、二十八ウ3「フレ ちゞの」)がある。

【未改修本】0004 (山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江))

【未改修本】0027 (山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大))

【改修本】0021 (山本九葉亭(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・玉水源治郎(大))

十二段 じゅうにだん

〈十行〉終丁丁付未詳

※作者・年記なし。同作十行本には、い本(終丁丁付・板心「十二」「卅六」)、ろ本(終丁丁付・板心「十二」「卅六終」)、は本(終丁丁付未詳。ノド。丁題「十二」)がある。これは、は本。

0035 (ノド丁付裁断。山本九兵衛(京))

出世景清 しゅっせかけきよ

〈十行〉終丁丁付「かけきよ卅二」。

作者近松門左衛門(内題下)

※年記なし。同作十行本には、異板が多い。終丁丁付「大仏廿六」本、終丁丁付・板心「かけ」「二十六終」本は、古浄瑠璃(角太夫本)。

義太夫本を終丁丁付の異同で示すと、甲：「かけきよ卅二」本、乙：「世三十四」(梓なし)本、丙：「出三十二」(ノド下部・梓なし)本、の三種がある。また甲本に三板、乙本に二板がある。以下、義太夫本の三種六板の異同の特徴を示す。

甲本 A:10ウ9「大ぐじの娘は」、11オ3「かなはじとすがり」、29ウ9「(歌括弧なし) 入せ給ひ」。

甲本 B:10ウ9「大ぐじの娘は」、11オ3「かなはじとすがり」、29ウ9「(歌括弧あり) 入せ給ひ」。

甲本 C:10ウ9「大ぐじのむすめは」、11オ3「かなはじとすがり」、(「歌括弧なし) 入せ給ひ」。

乙本 D:10ウ9「大ぐじのむすめは」、11オ3「かなはじとすがり」、29ウ9「(歌括弧なし) 入せ給ひ」。

乙本 E:10ウ9「大ぐじのむすめは」、11オ3「かなはじとすがり」、30ウ9「(歌括弧なし) 入せ給ひ」。

丙本 F:10ウ9「大ぐじが娘を」、11オ3「かなはじ

とすがり」、29ウ9「(歌括弧なし) 入せ給ひ」。

以下は、いづれも甲本 C。

0038 (鶴屋喜右衛門(江)・鶴屋喜右衛門(京))

0037 (鶴屋喜右衛門(江)・鶴屋喜右衛門(京))

酒呑童子出生記 しゅてんどうじしゅっしょうき

〈七行〉終丁丁付「酒九十三終」

梁塵軒作(内題下)

※年記なし。未改修本(三十丁表三行目「母は」の文字譜「地」と、改修本(同文字譜「地ウ」)がある。これは改修本。

▼0870 (正本屋九左衛門(大))

〈十行〉終丁丁付「酒てん七十終」

梁塵軒作(内題下)

※年記なし。

0807 (菊屋七郎兵衛(京))

酒呑童子枕言葉 しゅてんどうじまくらことば

〈七行〉終丁丁付「枕七十三了」

近松門左衛門作(内題下)

※年記なし。同作七行本には、山本板(終丁丁付「酒八十五了」)、他書肆・大坂板(終丁丁付・板心「枕」「八十」)、他書肆・京都板(終丁丁付「枕七十三了」)がある。また山本板には、未改修本(七丁表五行目「つゝみのやさう」と改修本(同「つゝみの弥惣」)がある。この間に『傾城酒呑童子』への板木流用を経るため。これは他書肆・京都板。

0003 (奥付欠)

〈八行〉終丁丁付「酒呑五十九了」

近松門左衛門作(内題下)

※年記なし。同作八行本には、山本板(終丁丁付「酒呑五十九了」)、他書肆板(終丁丁付・板心「枕」「五十三」)がある。これは山本板。

0025 (奥付欠)

0043 (巻末欠、「酒呑五十七」まで。山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大))

酒呑童子話 しゅてんどうじむかしがたり

〈七行〉終丁丁付「酒呑九十八納」

作者 添削佐川藤太・吉田新吾(終丁表)

文化十一甲戌年如月廿二日(終丁表)

※同作七行本には、六十・六十一丁について、未改修本(六十ウ4「鬼女」の振り仮名「きちよ」)、改修本(「きちよ」)がある。これは改修本。

0763（菊屋七郎兵衛（京）・松本平助（江）・天満屋源治郎（大）・天満屋安兵衛（大）・勝尾屋六兵衛（大））

崇徳院讃岐伝記 しゅとくいんさぬきでんき
角書「金毗羅・御本地」

〈七行〉終丁丁付「崇九十八終」
作者連名 竹田出雲・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・三好松洛（終丁表）
宝暦六年丙子如月朔日（終丁表）

▼ **1108**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

主馬判官盛久 しゅめのはんがんもりひさ
〈八行〉終丁丁付未詳（裁断）。

※作者・年記なし。

0020（奥付欠）

潤色江戸紫 じゅんしょくえどむらさき
角書「小袖繡に吉三の文字・風流娘のお七か物好」（題簽）

〈七行〉終丁丁付なし（前丁「紫九十七」）
作者為永太郎兵衛（内題下）作者連名 浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴（終丁表）
延享元年甲子四月五日（終丁表）
※同作七行本には、未改修本（終丁表四行目「時に近江の志賀の里。ぎずいと呼れ」）と、改修本（同「時に。眠美と名を。改ねむりを覚」）がある。これは未改修本。

0305（奥付欠）

▼ **0919**（西沢九左衛門（大））

諸葛孔明鼎軍談 しょかつこうめいかなえぐんだん
〈七行〉終丁丁付「孔八十七了」

作者竹田出雲（内題下）
※題簽には「三国志大全・諸葛孔明／鼎軍談」。年記なし。同作七行本には、未改修本（二十八丁表四行目「射込し」の文字譜「ウ」の上に、台形様の四角。板木の滲え残しか）と、改修本（削除した本）がある。これは未改修本。

▼ **0574**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

自来也物語 じらいやものがたり
角書「歌舞伎精巧・戯棚之脩飾」
〈七行〉終丁丁付「自来也百二納」

作者 並木春三・芳井平八（終丁表）
文化六己巳年八月廿四日（終丁表）

▼ **1065**（松本平助（江）・天満屋安兵衛（大））

塩飽七島稚陣取 しわくななしまおさなじんどり
〈七行〉終丁丁付「陣取百畢」

作者 竹田文吉・北脇素人・一來堂・八民平七（終丁表）
安永五丙申年九月廿三日（終丁表）

▼ **0252**（鱗形屋孫兵衛（江）・伝法屋吉九郎（大））

新うすゆき物語 しんうすゆきものがたり
角書「時代・世話」

〈七行〉終丁丁付「薄八十六了」
作者 文耕堂・三好松洛・小川半平・竹田小出雲（内題下）

寛保元歳辛酉五月十六日（終丁裏）

0575（奥付欠。卷末に一丁あって、表に「三段続役割」、裏に「浄瑠璃太夫連名」を載せる。役割は1754宝暦4年7月・大坂竹本座の番付に一致）

0920（山本九菓亭（大）・玉水源治郎（大）・紙屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・加島屋清助（大））

神功皇后三韓責 じんぐうこうごうさんかんぜめ
〈七行〉終丁丁付・板心「神」「八十九」

作者紀海音（内題下）

※年記なし。

1066（奥付欠）。

心中重井筒 → 追善重井筒 ついぜんかさねいづつ ヲミヨ

心中紙屋治兵衛 しんじゅうかみやじへえ
〈七行〉終丁丁付「紙屋六十一畢」

作者 近松半二・竹田文吉（終丁表）
安永七戊戌年卯月廿一日（終丁表）
※同作七行本には、未改修本（内題下「竹本染太夫正章」、十九丁裏四行目「一チ分ン」、五十三丁表五行目「乳母（うは）か」。五十四丁丁付の枠あり）、第一次改修本（十九丁裏四行目「一分ン」、五十三丁表五行目「乳（う）母か」。五十四丁丁付の枠なし。板木差替による異同）、第二次改修本（内題下「竹本染太夫」）がある。これは第二次改修本。

0764 (山本九葉亭 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

1067 (山本九葉亭 (大)・玉水源次郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

信州川中島合戦 しんしゅうかわなかじまがっせん
角書「甲斐信玄・越後謙信」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「中島七十八終」

作者近松門左衛門 (内題下)

※年記なし。

0047 (加島清助 (大))

0610 (奥付欠)

心中天の網島 しんじゅうてんのあみじま

角書「かみや治兵衛・きいの国や小はる」(題簽)

〈十行〉終丁丁付「あみ廿四了」。

作者近松門左衛門 (内題下)

※年記なし。

0614 (奥付欠)

心中宵庚申 → 宵庚申 よいごうしん ヲミヨ

新板大塔宮 → 大塔宮囃鏡 おおとうのみやあさひのよろい ヲミヨ

新板累物語 しんばんかさねものがたり

角書「信田小太郎・小山判官」

〈七行〉終丁丁付「累百三終」

作者並木良輔 (内題下)

作者連名 一二三軒・八州堂・三楽坊 (終丁裏)

寛延三庚午載八朔吉祥日 (終丁裏)

※のちに『累解脱打舗』と改題される。

▼ **0765** (西沢九左衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

新板累物語 → 累解脱打舗 かさねげだつのうちしき モミヨ

新吉原瀬川復讐 しんよしわらせがわあだうち

〈七行〉終丁丁付「瀬川五十三納」

司馬芝叟作 (内題下)

作者補助 近松要助・並木春助 (前見返し)

作者補助並木春三 (終丁裏)

文化三年丙寅三月三日 (終丁裏)

▼ **0562** (松本平助 (江)・天満屋源治郎 (大)・墨屋吉兵衛 (京)・鶴屋喜右衛門 (京)・菱屋治兵衛 (京)・菊屋七郎兵衛 (京)・菱屋孫兵衛 (京))

神靈矢口渡 しんれいやぐちのわたし

〈七行〉終丁丁付「矢口九十七大尾」

福内鬼外戯作。補助 吉田冠子・玉泉堂・吉田二一 (終丁表)

明和七年庚寅正月十六日 (終丁表)

※同作七行本には、江戸の初板 (終丁丁付「矢口九十七大尾」。終丁裏に跋文あり) と、大坂の再板 (終丁丁付「矢口 納」。跋文なし) がある。初板には、未改修本 (四丁表七行目「揚雄 (やうゆう) が娘」。廿一丁表一行目「忿迅の」、八十八丁表一行目「名主殿へ」・同三行目「わしは名主シへ」)、第一次改修本 (四丁表七行目「養由 (やうゆう) が娘」)、第二次改修本 (廿一丁表一行目「『奮』迅の」)、第三次改修本 (八十八丁表一行目「庄屋殿へ」・同三行目「わしは庄屋へ」) がある。またのちに安永元年四月『新田社勸請伝記』と改題再演される。

【初板第三次改修本】 **1326** (須原屋市兵衛 (江))

【再板】 **1327** (菊屋七郎兵衛 (京)・倉橋屋仁助 (大)・綿屋喜兵衛 (大))

容競出入湊 すがたくらべでいりのみなど

角書「昔妓の男作・今操の女作」

〈七行〉終丁丁付「容九十八納」

作者 並木丈輔・豊岡珍平・安田蛙桂・浅田一鳥 (終丁裏)

延享戊辰歳正月五日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (壹丁裏一行目「お賤御前。」、改修本 (「お賤の前。」) がある。これは未改修本。

▼ **0563** (正本屋九左衛門 (大))

容競唐土噺 すがたくらべもろこしばなし

寿館狐馬懸 めっぽうやかたきつねのうまかけ

角書「おどけ・浄瑠璃」(『寿館狐馬懸』)

〈七行〉終丁丁付「放氣十五連官七十二納」

作者 八民平七・並木吾文・並木宗子・並木正三 (終丁表)

明和五戌子年九月吉日 (終丁表)

※本作の初演興行では、五作品を同時に上演した。絵尽に拠れば、①「新舞台連管の三番叟」、②「寿館狐馬懸」、③「関取二代勝負附」、④「容競唐土噺」、

⑤「当世模様浮名楓」、の順。

※七行本では、④②の合刻本、③の単行本の二板、十行本では④②③の合刻本、が刊行された。七行本の④②合刻本には、未改修本（『寿館狐馬懸』本文丁付「放気壺」～「放気十四」）と、改修本（『寿館狐馬懸』本文丁付「放気」を削り、「壺」～「十四」）がある。

※なお終丁丁付を「七十二納」と数えるのは、④廿四丁と②十五丁の他に、③三十三丁を加える予定であったものと推定される。十行本では④②③の合刻本が出たが、七行本では②③④の合刻本は未見である。

▼【未改修本】0950（鱗形屋孫兵衛（江）・瀬戸物屋伊兵衛（大））

【改修本】0949（奥付欠）

菅原伝授手習鑑 すがわらでんじゅてならいかがみ
〈七行〉終丁丁付「手九十八終」

竹田出雲作（内題下）作者連名 並木千柳・三好松洛・竹田小出雲（終丁裏）

延享三年寅八月廿一日（終丁裏）

※同作七行本には、初板系統（終丁丁付「手九十八終」）、三板（「菅原九十八納」）がある。初板系統には、初板（八十丁裏六行目「被下」に振り仮名「くだされ」）、再板（振り仮名なし）がある。また初板には、未改修本（八十六丁裏四行目「舌」に振り仮名なし）、改修本（振り仮名「した」埋木）がある。

【再板】0951（奥付欠）

【三板】1068（山本九葉亭（大）・玉水源治郎（大）・紙屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・加島屋清助（大））

【三板】1069（加島清助（大））

〈八行〉上巻「菅原六十了」、下巻「菅原下五十九了」
竹田出雲作・一立斎広重画（上巻扉）

弘化三丙午年（下巻終丁裏）

※江戸・三河屋喜兵衛が刊行した「絵入浄瑠璃読本」のひとつ。中本で、挿絵があるのが特徴。

0001（上巻。後見返しに「新板絵入浄瑠璃読本目録」がある）

0002（下巻。三河屋喜兵衛（江））

〈十行〉終丁丁付「手習七十終」

竹田出雲作（内題下）作者連名 並木千柳・三好松洛・竹田小出雲（終丁裏）

延享三年寅八月廿一日（終丁裏）

※同作十行本には、い本（終丁丁付「手習七十終」）、

ろ本（「菅七十終」）がある。これは、い本。

0937（奥付欠）

須磨都源平躑躅 すまのみやこげんぺいつつじ

〈七行〉終丁丁付「須九十六了」

作者 文耕堂・長谷川千四（内題下）

※年記なし。

1070（奥付欠）

住吉誕生石 すみよしたんじょうせき

角書「都朗詠・東管絃」

〈七行〉終丁丁付「誕生石九十終」

作者松井星照（終丁裏）

寛延元年戊辰九月三日（終丁裏）

※のちに読本浄瑠璃・安永七年『平家朗詠・源氏管弦／相生轡の松』と改題される。

1071（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

清和源氏十五段 せいわけんじじゅうごだん

〈七行〉終丁丁付「清九十一了」

作者 並木宗助・安田蛙文（内題下）

※年記なし。同作七行本には、未改修本（十三丁表二行目「范増は呉王の」）、改修本（「范増は項王の」）がある。

【未改修本】0766（奥付欠）

【改修本】0844（鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大））

関取千両幟 → 花軍寿永春 はないくさじゅえいのはる ヲミヨ

関取二代鑑 → 関取二代勝負附 せきとりにだいのしょうぶづけ ヲミヨ

関取二代勝負附 せきとりにだいのしょうぶづけ

角書「秋津島・鬼ヶ嶽」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「関取大尾」（前丁「関三十三畢」）

作者 八民平七・並木吾文・並木宗子・並木正三（終丁表）

明和五稔戊子九月吉辰（終丁表）

※初摺本では、終丁表に「役割」、終丁裏に「浄瑠璃太夫連名」を載せる。後摺本では、役割・連名丁を欠く。これは初摺本。のちに年次未詳『関取二代

鑑』と改題される(包紙・題簽)。

※『容競唐土噺・寿館狐馬懸』書誌備考を参照されたい。

0845 (奥付欠)

摂州合邦辻 せっしゅうがっぽうがつじ

〈七行〉終丁丁付「合邦五十納」

作者 菅専助・若竹笛躬(終丁裏)

安永貳癸巳歳如月五日(終丁裏)

0564 (西沢九葉軒(大)・玉水源治郎(大)・紙屋与右衛門(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・加島屋清助(大))

▼0871 (正本屋小兵衛(大)・鱗形屋孫兵衛(江))

0846 (奥付欠)

摂州渡辺橋供養 せっしゅうわたなべはしくよう

〈七行〉終丁丁付「橋九十五納」

作者連名 豊丈助・安田蛙桂・浅田一鳥(終丁裏)

寛延元歳辰霜月十五日(終丁裏)

※初摺本では前見返しに口絵(三ノ切、熊野御前と作治の争いを描く)がある。これは口絵がない。

0938 (奥付欠)

蟬丸 せみまる

〈七行〉終丁丁付「七十三終」

作者近松門左衛門(内題下)

※年記なし。同作七行本には、山本板(終丁丁付「七十三終」)と他書肆板(板心「せみ」「八十」)がある。これは山本板。

0040 (山本九葉亭(大)・玉水源治郎(大)・紙屋与右衛門(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・加島屋清助(大))

世話言漢楚軍談 せわことばかんそぐんだん

〈七行〉終丁丁付「世九十一納」

作者竹田外記(内題下) 作者 三好松洛・近松半二・中邑閏助・吉田冠子(終丁裏)

宝暦貳壬申天五月十八日(終丁裏)

▼1072 (山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江))

前九年奥州合戦 ぜんくねんおうしゅうかつせん

〈七行〉終丁丁付「前九十八終」

作者連名 浅田一鳥・黒藏主・七才子・難波三藏・

豊竹応律(終丁裏)

宝暦七年丁丑三月廿日(終丁裏)

▼0939 (鱗形屋孫兵衛(江)・西沢九左衛門(大))

増補会稽山 → けいせい箱根育 けいせいはこねそだち ヲミヨ

増補河内通 → 初冠賤束帯 ういこうぶりしずのそくたい ヲミヨ

増補大仏殿蹴礎 ぞうほだいぶつでんぼんだいのいしづえ

〈七行〉終丁丁付「大八十九終」

作者 浅田一鳥・豊岡珍平(終丁裏)

※年記なし。

▼0940 (西沢九左衛門(大))

相馬太郎孳文談 そうまたろうみばえぶんだん

〈七行〉終丁丁付「相百三終」

作者並木永輔(内題下) 作者 浅田一鳥・浪岡蟹藏・並木素柳・豊竹千籥(竹路)(終丁裏)

宝暦四年甲戌如月廿一日(終丁裏)

※同作七行本には、初板(内題上空白)と再板(内題の上に「再・板」とある)がある。これは初板。

▼0565 (鱗形屋孫兵衛(江)・西沢九左衛門(大))

〈十行〉終丁丁付「相七十畢」

作者並木永輔(内題下) 作者 浅田一鳥・浪岡蟹藏・並木素柳・豊竹千籥(竹路)(終丁裏)

宝暦四年甲戌如月廿一日(終丁裏)

0057 (菱屋治兵衛(京))

曾我扇八景 そがおうぎばっけい

〈十行〉終丁丁付・板心「八景」「卅八」

近松門左衛門作(内題下)

※年記なし。同作十行本には、山本板(終丁丁付「扇卅六了」)、他書肆板(板心「八景」「卅八」)がある。これは他書肆板。

0615 (正本屋七兵衛(大)・正本屋喜右衛門(京))

曾我会稽山 そがかいけいざん

〈七行〉終丁丁付「曾九十三終」

作者近松門左衛門(内題下)

※年記なし。

0005 (加島清助(大))

曾我五人兄弟 そがごにんきょうだい

〈八行〉終丁丁付・板心「五人」「八十三」

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。同作八行本には、山本板（終丁丁付未詳。丁題「曾」）、他書肆板（終丁丁付・板心「五人」「八十三」）がある。これは他書肆板。

0616（正本屋仁兵衛（大））

曾根崎模様 そねざきもよう

角書「おはつ・徳兵衛」

〈七行〉終丁丁付「模様八十五終」

作者連名 若竹笛躬・浅田一鳥・福松藤助・黒蔵主・中邑阿契（終丁表）

宝暦十一年辛巳五月十八日（終丁表）

※のちに年月未詳『桂川恋の柵』と改題される。

0941（奥付欠。終丁表破損）

染模様妹背門松 そめもよういもせのかどまつ

〈七行〉終丁丁付「染四十八納」

作者菅専助（終丁裏）

明和四歳丁亥臘月十五日（終丁裏）

※同作七行本には、初板（道行丁付：「染三十」「染道三十一」）、再板（「染道三十」「染道三十一」）がある。これは再板。

0847（正本屋小兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

〈十行〉終丁丁付「染模様三十六」

作者菅専助（終丁裏）

明和四歳丁亥臘月十五日（終丁裏）

※同作十行本には、京都板（「染模様三十六」）、大坂板（「染三十四納」）、加えて「おそめ・久まつ／妹背門松」と改題した本・京都鶴屋板（「おそめ卅六納」）がある。これは京都板。

0056（菊屋七郎兵衛（京））

大経師昔曆 だいきょうじむかしごよみ

〈八行〉終丁丁付「大経卅三了」

作者近松門左衛門（内題下）

※年記なし。

0617（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

大功艶書合 たいこうえんじょあわせ

角書「瀬川采女様参るきくより・貴田孫兵へ様参るそのより」

〈七行〉終丁丁付「合百十納」

作者 芝屋芝叟・千代古道（終丁表）

天明七丁未年十月十九日（終丁表）

0767（山本九菓亭（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・玉水源治郎（大））

▼**1073**（本屋卯之助（大）・前川六左衛門（江）・菊屋七郎兵衛（京）・和泉屋善兵衛（大））

太功後編の猿颯 たいこうごにちのはたあげ

〈七行〉終丁丁付「後編百十納」

作者連名 近松柳・近松湖水軒・千葉軒（終丁表）

寛政十一巳未年十月十四日（終丁表）

0306（竹中清助（大））

▼**1074**（松本平助（江）・菊屋七郎兵衛（京）・菱屋治兵衛（京）・紀伊国屋善助（大）・和泉屋善兵衛（大））

太政入道兵庫岬 だいじょうにゅうどうひょうごのみさき

〈七行〉終丁丁付「兵九十一了」

作者 竹田小出雲・竹田正蔵（内題下）

※年記なし。

▼**0790**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

〈十行〉終丁丁付「岬六十五了」

作者 竹田小出雲・竹田正蔵（内題下）

※年記なし。

0566（菱屋治兵衛（京））

大職冠 たいしょかん

〈十行〉終丁丁付「大織卅五了」

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。義太夫本『大職冠』十行本には、い本（終丁丁付・板心「大織」「卅五」）、ろ本（「大職卅五了」）がある。これは、ろ本。

1252（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

大内裏大友真鳥 だいでいりおおとものまとり

〈七行〉終丁丁付「真八十七了」

作者竹田出雲（内題下）

※年記なし。同作七行本は、卅七丁板木について、未改修本（卅七丁表二行目「離（はな）れず。」）と、改修本（同「離（はな）れず。」）がある。

【未改修本】**0308**（奥付欠）

【改修本】**0307**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

大仏殿万代石楚 だいぶつでんばんだいのいしずえ

〈七行〉終丁丁付「大八十六了」

作者 西沢一風・田中千柳 (内題下)

※年記なし。

0567 (奥付欠)

太平頭整飾 → 鎌倉三代記 かまくらさんだいき・花飾三代記 ヲミヨ

太平記囃鏡 → 大塔宮囃鏡 おおとうのみやあさひのよろい ヲミヨ

太平記菊水之巻 たいへいききくすいのまき

角書「南朝正平四年・北朝貞和五年」

〈七行〉終丁丁付「菊九十八納」

竹田小出雲 (内題下) 千前軒門人 作者 二歩堂・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛 (終丁表)

宝暦九年己卯九月十六日 (終丁裏)

※同作七行本には、初板 (終丁丁付「菊九十八納」) と、再板 (「改「菊九十八納」」。内題の上方に「再・版」とある) とがある。これは初板。

0848 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))**太平記忠臣講釈** たいへいきちゅうしんこうしゃく

角書「高師直・塩冶判官」

〈七行〉終丁丁付「太平百納」

作者 近松半二・三好松洛・竹田文吉・竹田小出・筑田平七・竹本三郎兵衛 (終丁裏)

明和三年丙戌十月十六日 (終丁裏)

※同作七行本には、初板 (内題上空白) と、再板 (内題の上方に「再板」とある) がある。また初板には、内題下「伊豆掾」・作者連名「伊豆」を、貼紙で「文吉」と改める本と、埋木で改める本とがある。これは再板。

0309 (奥付欠。終丁欠)**0849** (山本九葉亭 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

〈十行〉終丁丁付「忠臣講釋六十五納」

作者 近松半二・三好松洛・竹田文吉・竹田小出・筑田平七・竹本三郎兵衛 (終丁裏)

明和三年丙戌十月十六日 (終丁裏)

0942 (菊屋七郎兵衛 (京))**太平鳴戸の船諷** たいへいなるとのふなうた

角書「海賊の張本・家老の随一」

〈七行〉終丁丁付「船諷九十六納」

作者 司馬芝叟 (内題下)

寛政五癸丑年三月九日 (終丁裏)

1075 (奥付欠)**平惟茂凱陣紅葉** たいらのこれもちかいじんもみじ

〈七行〉終丁丁付「平百二抜」

千前軒門人 作者 竹田出雲・吉田冠子・近松景鯉・近松半二・中邑閏助・三好松洛 (終丁表)

宝暦六年丙子十月十五日 (終丁裏)

0310 (奥付欠)▼ **0311** (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))▼ **0878** (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))**伊達競阿国戯場** だてくらべおくにかぶき

〈七行〉終丁丁付「伊達百十九終」

作者 達田弁二・鬼眼。烏亭焉馬戯作 (終丁裏)

安永八亥年三月廿一日 (終丁裏)

※年記・作者は未改修本に拠る。同作七行本には、未改修本 (四十一丁表四行目「御声に絹川が。」。年記「三月廿一日」)、第一次改修本 (四十一丁表四行目「御こへ耳に絹川か。」、第二次改修本 (年記を「正月二日」と改める。そのほか終丁裏の作者署名を「作者達田弁二」と改める) がある。これは第二次改修本。

0791 (松本屋万吉 (江)・上総屋利兵衛 (江))**1076** (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))**伊達錦五十四郡** だてにしきごじゅうしぐん

角書「女頼朝・女義経」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「伊達九十五了」

作者 三好松洛・近松半二・中邑閏助・吉田冠子 (終丁裏)

宝暦貳壬申年霜月十六日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (内題下空白)、改修本 (内題下「作者竹田外記」と埋木) がある。これは未改修本。

▼0568 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・
鱗形屋孫兵衛 (江))

〈十行〉終丁丁付「伊達七十治」

作者 三好松洛・近松半二・中邑閨助・吉田冠子 (終
丁裏)

宝曆式壬申年霜月十六日 (終丁裏)

0943 (奥付欠)

伊達娘恋緋鹿子 だてむすめこいのひがのこ

角書「起請方便品・書置寿量品」

〈七行〉終丁丁付「緋鹿子九十三畢」

作者 菅専助・松田和吉・若竹笛躬 (終丁裏)

安永式癸巳年卯月六日 (終丁裏)

0312 (西沢九葉軒 (大)・今井七郎兵衛 (京)・
松本平助 (江)・玉水源治郎 (大))

0850 (竹中清助 (大))

▼1077 (巻末欠、「緋鹿子八十四」まで。正本屋
小兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

玉黒髪七人化粧 たまかづらひちにんげしょう

角書「うとふの安瀉街・しのぶの錦木墳」

〈七行〉終丁丁付「玉黒髪九十六納」

作者 佐川藤太・吉田新吾 (終丁裏)

于時文化五戌辰年三月三日 (終丁裏)

0769 (奥付欠)

▼1040 (松本平助 (江)・天満屋源治郎 (大)・
菊屋七郎兵衛 (京)・美濃屋平兵衛 (京)・栄井屋善
治 (京)・近江屋伝右衛門 (京))

玉藻前囃袂 たまものまえあさひのたもと

角書「那須野狩人・那須野獵師」

〈七行〉終丁丁付「玉百終」

作者 浪岡橋平。作者 浅田一鳥・安田蛙桂 (終丁裏)

寛延四辛未歳正月十四日 (終丁裏)

※次項の同名作とは別物。初摺本には口絵 (二ノ切
通忠館。双六をする娘二人と、見守る金藤次を描く) がある。

1037 (奥付欠。口絵なし)

玉藻前囃袂 たまものまえあさひのたもと

角書「絵本・増補」

〈七行〉終丁丁付「玉九十七畢」

作者 浪岡橋平・浅田一鳥・安田蛙桂。添削 梅枝
軒・佐藤太 (終丁裏)

寛延四辛未年正月十四日・文化三丙寅年五月再板

(終丁裏)

※前項の同名作とは別物。初摺本は、前見返しに「浄
瑠璃太夫役割」を載せる。

0770 (西沢九葉軒 (大)・今井七郎兵衛 (京)・
松本平助 (江)・玉水源治郎 (大)。役割あり)

1038 (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙
屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助
(江)・加島屋清助 (大)。役割なし)

田村磨鈴鹿合戦 たむらまろすずかかっせん

〈七行〉終丁丁付「田九十一終」。

作者 浅田一鳥・豊田正蔵 (内題下)

※年記なし。

0313 (加島清助 (大))

0851 (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙
屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助
(江)・加島屋清助 (大))

1039 (鱗形屋孫兵衛 (江)・天満屋源次郎 (大))

袂の白しぼり たもとのしらしぼり

〈九行〉終丁丁付・板心「そめ」「廿六」

作者 紀海音 (内題下)

※年記なし。同作九行本には、い本 (終丁丁付・板心
「そめ」「廿六」)、ろ本 (終丁丁付未詳。ノド丁付、丁題「お
そ)」がある。これは、い本。

0049 (正本屋七兵衛 (大)・正本屋喜右衛門 (京))

丹州爺打栗 たんしゅうててうちぐり

角書「公時老武者・公平若武者」

〈十行〉終丁丁付「丹六十一了」

作者 竹田小出雲・三好松洛 (内題下)

寛保三天癸亥五月十八日 (終丁裏)

1048 (奥付欠)

壇浦兜軍記 だんのうらかぶとぐんき

〈十行〉終丁丁付「かふと六十八了」

作者 文耕堂・長谷川千四 (内題下)

※年記なし。

0771 (菱屋治兵衛 (京)・鱗形屋孫兵衛 (江))

丹波与作 たんばよさく

〈七行〉終丁丁付「与五十九」。

近松門左衛門作 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、未改修本 (四十七)

表一行目・標題「下之巻 与作小まん夢路の駒」、改修本（同・標題「下之巻 道行 [空白]」）がある。これは改修本。

0618（奥付欠）

児源氏道中軍記 ちごげんじどうちゅうぐんき

〈七行〉終丁丁付「児九十九了」

作者竹田出雲掾（内題下）門人 三好松洛・竹田小出雲（終丁裏）

延享元甲子三月六日（終丁裏）

1049（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

1050（奥付欠）

〈十行〉終丁丁付「児六十一終」

作者竹田出雲掾（内題下）門人 三好松洛・竹田小出雲（終丁裏）

延享元甲子三月六日（終丁裏）

0875（奥付欠。墨書で「菊屋七郎兵衛（京）」板の奥付を補う）

忠義墳盟約大石 ちゅうぎづかちかいのおおいし

〈七行〉終丁丁付「大石百五ノ終」

作者 若竹笛躬・中村魚眼・並木千柳（終丁表）

寛政九年丁巳如月廿一日（終丁表）

▼0792（松本平助（江）・菊屋七郎兵衛（京）・天満屋太七（大）・正本屋小兵衛（大）・勝尾屋六兵衛（大））

忠孝大磯通 ちゅうこうおおいそがよい

〈7行〉終丁丁付「忠孝九十七納」

作者菅専助（終丁裏）

明和五年戊子九月廿二日（終丁裏）

▼0793（正本屋小兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

忠臣伊呂波実記 ちゅうしんいろはじっき

〈七行〉終丁丁付「以呂波九十七大尾」

福内鬼外戯作（終丁裏）

安永四年未七月十五日（終丁裏）

▼1322（山崎金兵衛（江）・松本屋万吉（江）・並河善六（江））

忠臣金短冊 ちゅうしんこがねのたんざく

角書「小栗判官・横山郡司」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「忠八十九」

作者 並木宗助・小川丈助・安田蛙文（内題下）

※年記なし。内題に「ちうしんこがねのたんざく」と振り仮名がある。

▼1051（正本屋九左衛門（大））

忠臣後日断 ちゅうしんごにちばなし

〈七行〉終丁丁付「忠臣四十五納」

作者 北脇素仁・中邑阿契・豊芦州・若竹笛躬（終丁裏）

明和第九壬辰歳卯月七日（終丁裏）

※同作七行本には、大坂での初板（終丁丁付「忠臣四十五納」）、江戸での重板（終丁丁付「咄ノ四十四納」）がある。江戸での重板には、年記「明和九壬辰歳九月廿二日」とあって、作者署名がない。これは、大坂初板。

▼0282（正本屋小兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

彫刻左小刀 ちょうこくひだりこがたな

〈七行〉終丁丁付「雕刻九十一納」

作者 花洛菅専助添削・柳太郎作事近松やなぎ・千葉軒。当時退座 若竹笛躬・並木千柳（終丁表）

寛政三辛亥年三月四日（終丁表）

▼1052（今井七郎兵衛（京）・西沢小兵衛（大））

蝶花形名歌島台 ちょうはながためいかのしまだい

角書「聶君は源家の類葉・嫁君は平家の落人」

〈七行〉終丁丁付「島台九十五納」。

作者 若竹笛躬・中村魚眼（終丁表）

寛政五年癸丑七月十六日（終丁表）

1053（奥付欠）

鎮西八郎誉弓勢 ちんぜいはちろうほまれのゆんぜい

角書「築紫の白縫・吾妻の彫江」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「鎮九十六納」

作者佐藤太（終丁表）

文化五戊辰年十月十五日（終丁表）

▼0314（山本九葉亭（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・玉水源治郎（大））

鎮西八郎唐土船 ちんぜいはちろうもろこしぶね

〈十二行〉終丁丁付「鎮廿七了」

作者紀海音（内題下）

※年記なし。

1054（正本屋七兵衛（大）・正本屋喜右衛門（京））

鎮西八郎射往来 ちんぜいはちろうゆみやおうらい
角書「絵入・かな附」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「鎮九十五治」

京春艸堂（内題下）

延享四年丁卯如月廿一日（終丁裏）

0283（玉水源二郎（大））

▼0315（玉水源二郎（大））

追善重井筒 ついぜんかさねいづつ

〈七行〉終丁丁付「井三十二了」

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。『心中重井筒』の改題本。享保十八年七月『重井筒容鏡』を経由しての再改題本。大阪音楽大学本（奥付欠）には、巻末に「音楽菩薩揃」が備わる。当該興行番付では「切ふし事」を備えたと知られ、これに相当する本文と思われる。

0619（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

巻末「音楽菩薩揃」なし）

追善五十年忌 ついぜんごじゅうねんき

角書「竹本の宵庚申・豊竹の二つ腹帯」

〈七行〉終丁丁付「追善二十」

明和六年丑四月八日（終丁裏）

※作者署名なし。

▼0620（正本屋小兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

檻樓錦今様織留 つづれのにしきいまようおりどめ

〈七行〉終丁丁付「織留九十六畢」

作者 入我園我入・長谷川夏秋（終丁表）

天明元辛丑年十月七日（終丁表）

▼0316（山崎金兵衛（江）・山本九兵衛（京）・

長谷川武市郎（大））

摂津国長柄人柱 つのくにながらのひとばしら

〈七行〉終丁丁付「柱九十了」

作者 並木宗助・安田蛙文（内題下）

※年記なし。

0772（正本屋九左衛門（大））

1055（奥付欠）

津国女夫池 → 室町千疊敷 むろまちせんじょう
じき ラミヨ

芽源氏鶯塚 つのげんじうぐいすづか

角書「清少納言・藤原行成」

〈七行〉終丁丁付「鶯九十三納」

作者連名 浅田一鳥・黒藏主・七才子・中邑阿契・豊竹応律（終丁裏）

宝暦九年己卯弥生三日（終丁裏）

▼0317（鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大））

裙重血紅跂 つまがさねちしおのあかばね

角書「お咲・文治」

〈七行〉終丁丁付「裙重七十納」

作者 達田弁二・吉田鬼眼（終丁裏）

安永九年庚子正月廿五日（終丁裏）

※のちに寛政十年三月『裙重嫩紅葉』と改題される。

▼1056（松本屋万吉（江）・上総屋利兵衛（江））

裙重嫩紅葉 つまがさねわかばのもみじ

角書「お咲・文治」

〈七行〉終丁丁付なし（前丁「裾重六十九」）

寛政十年午三月（終丁裏）

※作者署名なし。『裙重血紅跂』の改題本。

0794（上総屋利兵衛（江））

天竺徳兵衛郷鏡 てんじくとくびょうえさとのすが
たみ

角書「後・日」

〈十行〉終丁丁付「天竺七十治」

竹田和泉掾（内題下）千前軒門人 作者 亶 近松半二・竹本三郎兵衛（終丁裏）

宝暦拾三歳未四月十四日（終丁裏）

0921（菱屋治兵衛（京））

天神記 てんじんき

〈七行〉終丁丁付「菅八十六了」

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。

0621（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

〈十行〉

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。同作十行本には、い本（終丁丁付「天五十三」終）、ろ本（終丁丁付「菅卅六了」）、は本（終丁丁付・板心「天神」「卅九」）がある。

【い本】0622（奥付欠。巻末欠、「天五十一」まで）

【ろ本】0023（奥付欠。巻末欠、板心「天神」「四

ノ七」まで)

天智天皇苅穂庵 てんぢてんのうかりほのいおり

〈七行〉終丁丁付「天百三了」

作者並木永輔(内題下) 作者 浅田一鳥・浪岡黒藏主・豊竹上野(終丁裏)

宝曆四甲戌年十二月十五日(終丁裏)

0293(鱗形屋孫兵衛(江)・西沢九左衛門(大))

東海道七里艇梁 とうかいどうしちりのわたし

〈七行〉終丁丁付「七里百畢」

作者 近松半二・栄善平・八民平七(終丁裏)

安永四乙未年二月廿三日(終丁裏)

0294(奥付欠)

東金茂右衛門 とうがねのもえもん

角書「上総国本妻・下総国忍妻」

〈六行〉終丁丁付「東金六十一尾」

于時明和六己丑年六月七日(終丁裏)

※作者署名なし。

▼1057(菊屋七郎兵衛(京)・正本屋清兵衛(大)・上総屋利兵衛(江))

唐金茂衛門東鬘 とうがねもえもんあづまかづら

〈七行〉終丁丁付「茂九十六尾」。

作者 桜井頼母・並木和輔(終丁裏)

延享式歳乙丑臘月閏朔日・延享三歳丙寅正月十八日日本出来(終丁裏)

※内題に「たうがねもえもんあづまかづら」と振り仮名がある。

0876(奥付欠。別本の奥付「山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江)」を誤綴)

道具屋お亀 どうぐやおかめ

角書「増・補」(題簽)

〈六行〉終丁丁付「道具百十五大尾」

天明二壬寅年林鐘五日(終丁裏)

※作者署名なし。

0553(奥付欠)

道成寺現在蛇鱗 どうじょうじげんざいうろこ

〈七行〉終丁丁付「鱗九十一終」

作者 浅田一鳥・並木宗輔(内題下)

※年記なし。

0554(奥付欠)

0877(奥付欠。初丁欠)

道中亀山漸 どうちゅうかめやまばなし

〈七行〉終丁丁付「亀山九十一畢」

作者近松半二(終丁裏)

安永七戌戌年七月十七日(終丁表)

0555(山本九葉亭(大)・玉水源治郎(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・紙屋与右衛門(大))

▼0773(天満屋源治郎(大)・鱗形屋孫兵衛(江)・伝法屋吉九郎(大))

融大臣塩竈桜花 とおるのおとどしおがまざくら

〈七行〉終丁丁付「塩竈百畢」

作者菅専助(終丁裏)

安永六丁酉歳八月十五日(終丁裏)

※同作七行本には、未改修本(八十五丁裏一行目「詔はぬ」に振り仮名なし)と、改修本(振り仮名「へつら」と埋木あり)がある。これは改修本。

0774(佐々井治郎右衛門(大)・山崎金兵衛(江)・鱗形屋孫兵衛(江))

内助手柄淵 ないすけてがらのふち

〈七行〉終丁丁付「内九十一納」

作者 豊竹応律・三笠恵吉・並木斎治(終丁裏)

明和式年乙酉七月廿五日(終丁裏)

※同作七行本には、未改修本(五十一丁表五行目「作つておけ。枝様」と、改修本(同「作つておけ。江度様」)がある。これは改修本。

0556(阿波屋森川平八(大)・鱗形屋孫兵衛(江))

那須与市西海硯 なすのよいちさいかいすずり

〈七行〉終丁丁付「那九十三」

作者 並木宗助・同丈助(内題下)

※年記なし。

0878(正本屋九左衛門(大))

1058(西沢九葉軒(大)・鱗形屋孫兵衛(江)・天満屋源次郎(大))

〈十行〉

作者 並木宗助・同丈助(内題下)

※年記なし。同作十行本には、い本(終丁丁付「なす六十八了」)、ろ本(終丁丁付「那七十了」)がある。

【い本】0944(鱗形屋孫兵衛(江)・八文字屋八

左衛門 (京))

【い本】 1059 (鶴屋喜右衛門 (江)・鶴屋喜右衛門 (京))

【ろ本】 0016 (菊屋七郎兵衛 (京))

夏衣裳鴈染 なついしょうかりがねぞめ

〈七行〉終丁丁付「鴈七十畢」

作者寺田兵蔵 (終丁表)

于時明和七庚寅歲閏六月廿二日 (終丁表)

※同作七行本には、未改修本 (終丁板木原板のまま) と、改修本 (終丁板木を差し替える。年記を「明和七寅閏六月廿二日・再板寛政七卯六月」と改める。和歌山帶屋高市伊兵衛板) がある。これは未改修本。

▼ 0557 (鱗形屋孫兵衛 (江)・糸屋源助 (大))

0558 (奥付欠。巻頭欠、「鴈十」～)

夏祭浪花鑑 なつまつりなにわかがみ

角書「団七九郎兵衛・釣船三婦・一寸徳兵衛」

〈七行〉終丁丁付「夏百壺終」

作者 並木千柳・三好松洛・竹田小出雲 (終丁裏)

延享弟 (マ) 二孟秋十六日 (終丁裏)

※同作七行本には、「第七」の、いわゆる「長町裏」の義平次の太夫指定を、「百合」とする本 (未改修本) と、「錦」とする本 (改修本) とがある。百合太夫は初演、錦太夫は宝暦五年七月『庭涼操座舗』興行での、部分再演時の配役。段物集『庭涼操座舗』への板木流用の際に、改修されたもの。これは改修本。

1060 (加島清助 (大))

0960 (山本九葉亭 (大)・玉水源次郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

〈十行〉終丁丁付「夏六十壺大尾」

作者 並木千柳・三好松洛・竹田小出雲 (終丁裏)

延享弟 (マ) 二孟秋十六日 (終丁裏)

0055 (鱗形屋孫兵衛 (江)・八文字屋八左衛門 (京))

夏浴衣清十郎染 なつゆかたせいじゅうろうぞめ

〈七行〉終丁丁付「夏浴衣五十畢」

作者 菅専助・豊春助 (終丁裏)

安永七戊戌年十二月廿一日 (終丁裏)

▼ 0253 (佐々井治郎右衛門 (大)・山崎金兵衛 (江)・鱗形屋孫兵衛 (江))

七小町 ななこまち

角書「小野炭焼・深草瓮師」

〈十行〉終丁丁付「七六十了」

作者竹田出雲 (内題下)

※年記なし。

1061 (八文字屋八左衛門 (京))

浪花文章夕霧塚 なにわぶんしょうゆうぎりづか

〈七行〉終丁丁付「夕九十了」

作者浪岡橋平。作者 浅田一鳥・安田蛙桂 (終丁裏)

寛延四辛未天四月廿五日 (終丁裏)

※初摺本には、前見返しに口絵 (六冊目新町揚屋。夕霧の道中姿を描く) がある。

0559 (奥付欠。終丁欠。口絵なし)

難波丸金鶏 なにわまるこがねのにわとり

〈七行〉終丁丁付「鶏百十終」

作者連名 若竹笛躬・豊竹応律・中邑阿契 (終丁裏)

宝暦九年己卯五月十四日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (七丁表五行目「助かつたか。コレ／＼。其歌はどうじや／＼。廓中へ」、八十五丁表一行目「官伸と」) と、改修本 (七丁表五行目「助かつたか。コレ／＼。其歌はどふでござります。廓中へ」、八十五丁表一行目「垣伸と」) がある。これは未改修本。

0879 (奥付欠)

業平男今様井筒 → 京土産名所井筒 きょうみやげめいしょのいづつ ラミヨ

南蛮鉄後藤目貫 → 腰越状四段目丸一段 こしごえじょうよだんめまるいちだん・義経腰越状 よしつねこしごえじょう ラミヨ

南北軍問答 なんぼくいくさもんどう

〈七行〉終丁丁付「南八十八終」

作者 西沢一風・田中千柳 (内題下)

※年記なし。

0284 (奥付欠。墨書の奥付「正本屋九左衛門 (大)」がある)

鳩湖高名硯 におのうみこうみょうすずり

角書「近江・源氏」

〈七行〉終丁丁付「高名硯九十四納」

作者添削近松柳。作者 近松湖水軒・近松梅枝軒

(終丁裏)

寛政十三辛酉年正月朔日 (終丁裏)

0775 (松本平助 (江)・天満屋安兵衛 (大)・本屋清七 (大)・本屋林蔵 (大))

日蓮記児硯 にちれんきちごすずり

角書「古人近松門左衛門作・当世並木宗輔添削」

〈七行〉終丁丁付「日八十五了」

古人近松門左衛門作・当世市中庵添削 (終丁裏)

寛延二巳己歳十月八日 (終丁裏)

※『いろは日蓮記』の改題本。

0318 (山崎金兵衛 (江))

日蓮聖人御法海 にちれんしょうにんみのりのうみ

〈七行〉終丁丁付「日九十終」

作者 並木鯨児・安田蛙桂。添削 浅田一鳥・並木宗輔 (終丁裏)

寛延四辛未年十月十日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (作者二人目「安田蛙桂」と、改修本 (同「並木正三」) がある。これは改修本。

0776 (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

1041 (加島清助 (大))

新田社勸請伝記 → 神霊矢口渡 しんれいやぐち
のわたし ラミヨ**日本傾城始** にっぽんけいせいの始まり

〈七行〉終丁丁付・板心「始」「九十五」

作者紀海音 (内題下)

※年記なし。

1042 (奥付欠)

日本賢女鑑 にっぽんけんじょかがみ

〈七行〉終丁丁付「賢九十八尾」

作者 近松やなぎ・近松松助 (終丁裏)

寛政六年甲寅十月十三日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (七十四丁表七行目・標題「十冊目」とある) と、改修本 (標題削除) がある。

▼【未改修本】0285 (菊屋七郎兵衛 (京)・播磨屋善助 (大)・正本屋小兵衛 (大)・勝尾屋六兵衛 (大))

【未改修本】0795 (松本平助 (江)・天満屋安兵衛 (大))

【改修本】0319 (竹中清助 (大))

日本振袖始 にっぽんふりそでの始まり

〈七行〉終丁丁付「日本八十三終」

作者近松門左衛門 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、未改修本 (五十七丁の次丁丁付「日本五十八」と、改修本 (「日本五十八六十二」) がある。これは改修本。

0623 (山本九兵衛 (京)・鱗形屋孫兵衛 (江)・天満屋源治郎 (大))

〈十二行〉終丁丁付「ふり廿六了」

作者近松門左衛門 (内題下)

※年記なし。同作十二行本には、い本 (内題「日本振袖始」)、ろ本 (「日本ふり袖始」) がある。これは、ろ本。

0624 (山本九兵衛 (京))

丹生山田青海剣 にぶやまだせいがいつるぎ

〈十行〉終丁丁付「青海六十一了」

作者並木宗輔 (内題下)

※年記なし。

0295 (菱屋治兵衛 (京))

庭涼操座鋪 にわすずみあやつりざしき

〈七行〉終丁丁付「庭涼大尾」(前丁丁付「万才四了」)

※作者署名・年記なし。

※宝暦五年七月「相模入道 二段続」の通し・立ての興行の、付け物七段の上演に関連して、旧板を寄せ集めたもの。「相生三大尽」、「対の花かいらぎ」、「千本桜狐のだん」、「椀久ゆかりの十徳」、「団七まつりの段」、「無間の鐘のだん」、「浄るり万歳」を収録。『義経千本桜』四ノ中「狐」は、現行本文と同じ増訂を行なう。巻末『浄瑠璃万歳』は、同年六月『庭涼座鋪操』から板木転用 (太夫指定を埋木で改訂)。

0560 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

博多織恋鏝 はかたおりこいのおもに

〈七行〉終丁丁付「鏝六十一納」

作者 菅専助・中村魚眼 (終丁裏)

寛政元巳酉年五月九日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (五丁裏四行目「仕(し)

たがる]、改修本(同「仕たがる」、振り仮名なし)がある。これは未改修本。

▼1043 (菊屋七郎兵衛(京)・前川六左衛門(江)・正本屋小兵衛(大))

化競丑満鐘 ばけくらべうしみつのかね

角書「狸和尚勸化帳・化地藏畧縁記」

〈八行〉終丁丁付「化くらべ六十納」

曲亭馬琴工夫直作(内題下) 作者曲亭馬琴(終丁裏)

寛政十二庚申正月吉日(終丁裏)

※読本浄瑠璃。同作には、未改修本(巻頭に扉、口上・目次を備える。本文は二丁表に始まる)、第一次改修本(巻頭に三丁あって、扉、口絵がある。本文は四丁表から始まる)、第二次改修本(第一次改修本を上中下に三分冊したもの)、第三次改修本(第二次改修本を再び一冊本としたもの)がある。これは第三次改修本。

1044 (葛屋重三郎(江))

箱根靈験鬩仇討 はこねれいげんいざりのあだうち

〈七行〉終丁丁付

司馬芝叟作(内題下)

享和元年辛酉八月四日(終丁裏)

備考:同作七行本には、五十二丁に続く二十丁の丁付について、未改修本、第一次改修本、第二次改修本、第三次改修本がある。第三次改修本には、前見返しに「浄瑠璃太夫役割」を載せる本、載せない本とがある。

未改訂本:五十七、五十八、五十五、五十六、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、六十七、六十八、七[十]三、七[十]四、七十一、七十七(下の七を「二」と上書き)。

第一次改修本:五十七、五十八、五十五、五十六、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、六十七、六十八、七[十]三、七[十]四、七十一、七十二(下の七の左を削って、二とみせる)。

第二次改修本:五十七、五十八、五十五、五十六、【五十七】、【五十八】、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、【六十五】、【六十六】、六十七、六十八、七[十]三、【七十】、七十一、【七十二】。【】を埋木改修。

第三次改修本:五十三~七十二。

【第三次改修本】1045 (奥付欠。役割あり)

【第三次改修本】0796 (松本平助(江)・紙屋与左衛門(大)・今井七郎兵衛(京)・菱屋治兵衛(京)・鶴屋喜右衛門(京)・柏屋宗七(京)・吉野屋勘兵衛(京)・綿屋平兵衛(大)・綿屋喜兵衛(大)。役割なし)

八陳守護城 はちじんしゅごのほんじょう

角書「小田の幼君・北畑の名君」

〈七行〉終丁丁付「八九十六終」

作者 中村漁岸・佐川藤太(終丁裏)

文化四丁卯年九月十一日(終丁裏)

※同作七行本には、未改修本(二十の次の丁付「八二十一」、五十九の次の丁付「八十六」、第一次改修本(「八二十一」のまま。「八六十」と埋木)、第二次改修本(「八二十壺」と板木差し替え。「八六十」と)がある。これは第二次改修本。

0797 (奥付欠)

八曲篁掛絵 はつきよくかたみのかけえ

〈六行〉終丁丁付なし(前丁「追十一終」)

編者竹田小出雲(終丁表)

延享元甲子霜月十六日(終丁裏)

※内題に「はつきよくかたみのかけえ」と振り仮名がある。巻頭に一丁あって、表に序文、裏に所収曲を掛軸八点に描く絵を載せる。終丁の、表に「編者竹田小出雲」の跋文、裏に年記と板元名を載せる。

▼0268 (山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大))

端手姿鎌倉文談 はですがたかまくらぶんだん

〈七行〉終丁丁付「端手姿九十六畢」

作者菅専助(終丁裏) 作者近松半二誌(奥付)

安永六丁酉年正月廿五日(終丁裏)

後摺本には、奥付の作者署名がない。これは初摺本。

▼0548 (佐々井治郎右衛門(大)・山崎金兵衛(江)・鱗形屋孫兵衛(江))

花筏巖流島 はいないかだがんりゅうじま

角書「増・補」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「巖百五納」

作者浅田一鳥・作者佐川藤太(終丁裏)

延享三丙寅年十一月三日・文化七庚午年九月八日(終丁裏)

※延享の同名作とは別物。

0798 (西沢九葉軒(大)・玉水源治郎(大)・今

井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・紙屋与右衛門（大）

花軍寿永春 はないくさじゅえいのはる
角書「平家遊君・源氏大尽」

関取千両幟 せきとりせんりょうのぼり
角書「後浄・瑠璃」

〈七行〉終丁丁付「寿関九十三了」

故人吉田冠子作（寿関三十一丁表七行目） 作者連名 近松半二・三好松洛・竹田文吉・竹田小出・八民平七・竹本三郎兵衛（終丁裏）

明和四年亥八月四日（終丁裏）

※同時に初演された二作品『花軍寿永春』『関取千両幟』を一冊として初板したもの。のちに分冊して、それぞれ単行される。

▼0549（山本九兵衛（京）・吉川宗兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

▼1046（山本九兵衛（京）・吉川宗兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

花飾三代記 はなかざるさんだいき

〈七行〉終丁丁付なし（前丁「飾■百」）

※作者署名・年記なし。上演禁止により未刊に終わった『太平頭鑿飾』の改題本。のちに『鎌倉三代記』と再改題される。『花飾三代記』には、未改修本（内題は本来のもの。跋文あり）、改修本（内題は埋木したもの。跋文なし）がある。これは改修本。

0852（正本屋九兵衛（京）・菊屋七郎兵衛（京）・菱屋治兵衛（京）・海老屋伊三郎（京）・鱗形屋孫兵衛（江））

花飾三代記 → 鎌倉三代記 かまくらさんだいき
モミヨ

花筐女鉢木 はながたみおんなはちのき

〈七行〉終丁丁付「はち廿一」

延享二年乙丑十一月之吉（序）

※作者署名なし。巻頭に1丁あって、「豊竹越前少掾」の序を載せる。文字譜・句点は、越前少掾自筆入章。内題に「はながたみおんなはちのき」と振り仮名がある。延享二年十一月の越前少掾引退興行再演時の配り本。

1109（奥付白紙）

競伊勢物語 はなくらべいせものがたり

〈七行〉終丁丁付「伊勢八十畢」

奈河亀助作（内題下） 作者連名 辰岡万作・奈河真藏・奈河丈助・吉井勢平（終丁裏）

安永四乙未年孟夏日（序文末） 安永四乙未歳四月五日（終丁裏）

※歌舞伎台本を刊行したもの。上下二冊から成る。これは下巻。

1047（奥付欠）

花競名句零 はなくらべめいくのあまごい

角書「三圍の旧蹟・吉原の名所」（題簽）

〈六行〉終丁丁付「名句下ノ五了」

浜釣亭門人 作者 浅一蓬・森竹釣虹（終丁裏）

文化三歳次丙寅正月（終丁裏）

※前見返しに「花競名句零 太夫役割」を載せる。役割の題に「はなくらべめいくのあまごひ」と振り仮名がある。

0861（須原屋平左衛門（京）・勝尾屋六兵衛（大）・音羽屋佐七（江）・西宮新六（江））

花系図都鑑 はなけいずみやこかがみ

角書「清水清玄・清水清玄」

〈七行〉終丁丁付「都七十五治」

竹田出雲（内題下） 千前軒門人 二歩軒・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終丁表）

宝暦拾二年壬午三月廿一日（終丁裏）

※同作七行本には、未改修本（壹丁表四行目「桃園中将」、九丁裏二行目「桃園の中将も」、三十四丁裏四行目「桃園の中将様へ」、三十六丁表四行目「桃園の中将様へ」、四十二丁表四行目「桃園中将の」、四十三丁裏六行目「桃園中将殿」、改修本（壹丁表四行目「花世中将」、九丁裏二行目「花世の中将も」、三十四丁裏四行目「花世の中将様へ」、三十六丁表四行目「花世の中将様へ」、四十二丁表四行目「花世中将の」、四十三丁裏六行目「花世中将殿）」がある。これは未改修本。

0269（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

0270（奥付欠）

花衣いろは縁起 はなごろもいろはえんぎ

角書「幼稚名三之助・法号玄恕上人」

〈七行〉終丁丁付「花九十二了」

作者 三好松洛・竹田小出雲（内題下）

寛保二壬戌歳二月十四日 (終丁裏)

0862 (山本九葉亭 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・玉水源治郎 (大))

花櫛会稽掲布染 はなだすきかいけいのかちんぞめ
〈七行〉終丁丁付「花櫛九十五納」

作者 菅専助・若竹笛躬 (終丁裏)

安永三甲午年八月十三日 (終丁裏)

1030 (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

1031 (奥付欠)

花魁蒼八総 はなのあにつぼみのやつふさ

角書「南窓里見・八犬士伝」(前編)

〈七行〉上巻終丁丁付「花五十九」、下巻終丁丁付「花百三十了」

作者山田案山子 (前編上巻内題下) 作者 吉田金四・桐竹門蔵・吉田辰五郎 (前編下巻口絵)

天保七年丙申九月 (前編下巻の初摺奥付) 天保七年丙申秋 (前編下巻の二摺奥付)

※同作七行本は、前後各編上下、計四冊から成る。

同作の初演は天保七年七月。前編の開板は、天保七年九月。

【上巻】**0241** (奥付白紙。0242 と組)

【上巻】**0247** (奥付白紙。組み合わせなし)

【上巻】**0245** (奥付白紙。0246・0243・0244 と組)

▼【下巻】**0249** (初摺。丁子屋平兵衛 (江)・河内屋長兵衛 (大)・菱屋治兵衛 (京)・平野屋茂兵衛 (京)・大文字屋得五郎 (京)。組み合わせなし)

【下巻】**0246** (二摺。丁子屋平兵衛 (江)・河内屋長兵衛 (大)・綿屋喜兵衛 (大)・菊屋七郎兵衛 (京)・鶴屋喜右衛門 (京)・柏屋宗七 (京)・吉野屋勘兵衛 (京)・菱屋治兵衛 (京)・平野屋茂兵衛 (京)・大文字屋得五郎 (京)。0245・0243・0244 と一組)

【下巻】**0248** (二摺。丁子屋平兵衛 (江)・河内屋長兵衛 (大)・綿屋喜兵衛 (大)・菊屋七郎兵衛 (京)・鶴屋喜右衛門 (京)・柏屋宗七 (京)・吉野屋勘兵衛 (京)・菱屋治兵衛 (京)・平野屋茂兵衛 (京)・大文字屋得五郎 (京)。組み合わせなし)

花魁蒼八総 はなのあにつぼみのやつふさ

角書「南総里見・八犬士伝」(後編)

〈七行〉上巻終丁丁付「後花五十三」、下巻終丁丁

付「後花百廿五了」

作者山田案山子 (後編上巻内題下)

天保八年西正月吉旦刻 (後編下巻終丁裏)

※同作七行本は、前後各編上下、計四冊から成る。同作の初演は天保七年七月。後編の開板は、天保八年正月。

【上巻】**0242** (奥付白紙。0241 と組)

▼【上巻】**0243** (奥付白紙。0245・0246・0244 と組)

▼【下巻】**0244** (丁子屋平兵衛 (江)・河内屋長兵衛 (大)・綿屋喜兵衛 (大)・菊屋七郎兵衛 (京)・鶴屋喜右衛門 (京)・柏屋宗七 (京)・吉野屋勘兵衛 (京)・菱屋治兵衛 (京)・大文字屋得五郎 (京)・平野屋茂兵衛 (京)。0245・0246・0243 と組)

【下巻】**0250** (丁子屋平兵衛 (江)・河内屋長兵衛 (大)・綿屋喜兵衛 (大)・菊屋七郎兵衛 (京)・鶴屋喜右衛門 (京)・柏屋宗七 (京)・吉野屋勘兵衛 (京)・菱屋治兵衛 (京)・平野屋茂兵衛 (京)・大文字屋得五郎 (京)。組み合わせなし)

花雲佐倉曙 はなのくもさくらのあけぼの

角書「鐘は・上野か・浅艸か」(内題)、「神霊・怪談」(題簽)

〈七行〉上巻終丁丁付「佐倉四十四」、下巻終丁丁付「佐倉百終」

作者 佐久間松長軒・登与島玉和軒 (下巻終丁裏)

嘉永第七寅初春 (上巻序) 嘉永六載癸丑九月発版 (下巻終丁裏)

※同作七行本は、はじめ上下二分冊本として出て、のちに上下一冊本が出た。

【二分冊本上巻】**0066** (奥付白紙。0067 と組)

【二分冊本下巻】**0067** (和泉屋市兵衛 (江)・菊屋七郎兵衛 (京)・加島屋清助 (大)・本屋清七 (大)・榎並屋久蔵 (大)・綿屋喜兵衛 (大)。0066 と組)

【一冊本】**0068** (奥付欠)

花楓都模様 はなもみじみやこもよう

角書「おはな・半七」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「花艳五十五納」

作者菅専助 (終丁裏)

寛政三辛亥年六月十一日 (終丁裏)

▼**1032** (今井七郎兵衛 (京)・西沢小兵衛 (大))

華和讚新羅源氏 はなわさんしんらげんじ

〈七行〉終丁丁付「華四十八終」

梁塵軒輯（終丁裏）

寛延貳己巳歳文月十五日（終丁裏）

※同作七行本には、初板（終丁丁付「華四十八終」、前丁丁付「花四十四五六七」）、再板未改修本（終丁丁付「華終」、前丁丁付「花四十四」）、再板改修本（終丁丁付「華四十八終」、前丁丁付「花四十四」）がある。これは初板。

1033（奥付欠。終丁欠）

〈十行〉終丁丁付「華三十」

※作者署名・年記なし。同作十行本には、い本（終丁丁付「華三十治」）、ろ本（終丁丁付「華三十」）がある。い本には、七行本に同じく、作者署名・年記がある。これは、ろ本。

0061（鶴屋喜右衛門（江）・鶴屋喜右衛門（京））**孕常盤** はらみどきわ

〈七行〉終丁丁付「孕八十了」

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。同作七行本には、山本板（終丁丁付「孕八十了」）、他書肆板（終丁丁付・板心「孕」「卅三」）がある。これは山本板。

0029（奥付欠）

〈八行〉終丁丁付「孕六十七了」

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。

0625（奥付欠）**繁花地男鑑** はんかのちおとこかがみ

角書「雷電源八・八十島鬼市」

〈七行〉終丁丁付「男鑑八十五畢」

作者 守川文蔵・中井桑治・春木元輔（終丁表）

安永八己亥年七月廿六日（終丁表）

▼ **0550**（山本九兵衛（京）・鱗形屋孫兵衛（江）・天満屋源治郎（大））

播州皿屋舗 ばんしゅうさらやしき

〈七行〉終丁丁付「皿下ノ卅三」

作者 為永太郎兵衛・浅田一鳥（内題下）

※年記なし。

0551（西沢九葉軒（大）・玉水源治郎（大）・紙屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・加島屋清助（大））

番場忠太紅梅籠 ばんばのちゅうだこうばいえびら

角書「五条坂のかぎりは・建仁寺の陀羅尼」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「番九十五治」

作者 若竹笛躬・中邑阿契（終丁裏）

宝暦十三年未臘月八日（終丁裏）

※同作七行本には、未改修本（年記「蠟月」）、改修本（虫偏を埋木して「臘」とする）がある。これは改修本。

0799（奥付欠）

〈十行〉終丁丁付「番場七十治」

作者 若竹笛躬・中邑阿契（終丁裏）

宝暦十三年未臘月八日（終丁裏）

0777（菊屋七郎兵衛（京））**彦山権現誓助剣** ひこさんごんげんちかいのすけだち

角書「御陣九州・地理八道」（内題）、「御陣は九州・地理は八道」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「誓百十三納」

作者 梅野下風・近松保蔵（終丁表）

天明六年午閏十月十八日（終丁表）

0552（山本九葉亭（大）・玉水源次郎（大）・紙屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・加島屋清助（大））

▼ **1034**（今井七郎兵衛（京）・八木治兵衛（京）・前川六左衛門（江）・山崎金兵衛（江）・玉水源治郎（大））

日高川入相花王 ひだかがわいりあいざくら

〈七行〉終丁丁付「花王九十四了」

千前軒門人 作者 竹田小出雲・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・二歩堂（終丁表）

宝暦九年己卯二月朔日（終丁裏）

※同作七行本には、廿九丁・三十丁の板木について、未改修本（原板。廿九丁裏二行目「存。」の捨て仮名「ジ」。三十丁表二行目「おめでたい」の「で、てと濁点が接しない）、改修本（差替板。廿九丁裏二行目「存。」の捨て仮名「シ」、三十丁表二行目「おめでたい」の「で、てと濁点が接する）がある。

▼ **【未改修本】0296**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

【改修本】0589（竹中清助（大））

〈十行〉終丁丁付「花王七十終」

千前軒門人 作者 竹田小出雲・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・二歩堂（終丁裏）

宝暦九年己卯二月朔日（終丁裏）

0863（菊屋七郎兵衛（京））

人丸万歳台 ひとまるばんぜいのうてな

〈七行〉終丁丁付「人丸九十七納」

作者 豊竹応律・浅田一鳥・中邑阿契・黒蔵主・七才子・若竹笛躬・福松藤助（終丁裏）

宝暦十一年辛巳九月十日（終丁裏）

▼ **0590**（鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大））

1035（奥付欠）

〈十行〉終丁丁付「人丸七十納」

作者 豊竹応律・浅田一鳥・中邑阿契・黒蔵主・七才子・若竹笛躬・福松藤助（終丁裏）

宝暦十一年辛巳九月十日（終丁裏）

0778（奥付欠）

鷗山姫舎松 ひばりやまひめすてまつ

角書「大和女・四国女」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「松九十七」

作者並木宗輔（内題下）

※年記なし。

0286（加島清助（大））

姫小松子日の遊 ひめこまつねのびのあそび

角書「常盤御前・熊野御前」

〈七行〉終丁丁付「姫九十七畢」

千前軒門人 作者 吉田冠子・近松景鯉・竹田小出雲・近松半二・三好松洛（終丁表）

宝暦七年丁丑二月朔日（終丁裏）

※同作七行本には、初板（十七丁表二行目「暇」、同四行目「幸イ」に振り仮名がある）、再板（振り仮名がない）がある。

▼ **【初板】 1036**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

【再板】 0999（山本九菓亭（大）・玉水源治郎（大）・紙屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・加島屋清助（大））

日吉丸二度清書 ひよしまるにどのきよがき

〈七行〉終丁丁付「日吉丸二度清書百納」

作者 近松やなぎ・近松加造・近松梅枝軒（終丁表）

享和二壬戌年八月廿八日（終丁表）

▼ **1000**（松本平助（江）・天津屋治郎右衛門（大）・天満屋安兵衛（大））

日吉丸稚桜 ひよしまるわかぎのさくら

角書「初更間は賤女の睦言・晨吻には英雄の産声」

〈七行〉終丁丁付「日吉丸百六納」

作者 近松やなぎ・近松加造・近松万寿・近松梅枝軒（終丁裏）

享和元辛酉年十月十四日（終丁裏）

※題簽に「ひよしまるわかぎのさくら」と振り仮名がある。初摺本には前見返しに「浄瑠璃太夫役割」がある。

▼ **1002**（松本平助（江）・和多屋喜兵衛（大）・天満屋安兵衛（大）。役割あり）

1001（加島屋竹中清助（大）。役割なし）

比良嶽雪見陣立 ひらがだけゆきみのじんだて

角書「装束紺奴服・指物金御幣」

〈七行〉終丁丁付「比良嶽百納」

作者 芝屋芝叟・梅野下風（終丁表）

天明六年午六月五日（終丁表）

0054（竹中清助（大））

0800（奥付欠）

1003（山本九菓亭（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・玉水源治郎（大））

ひらかな盛衰記 ひらがなせいすいき

角書「逆櫓松・矢箆梅」

〈七行〉終丁丁付「盛九十三了」

作者連名 文耕堂・三好松洛・浅田可啓・竹田小出雲・千前軒（終丁裏）

元文四己未歳四月十一日（終丁裏）

※同作七行本には、初板系統（終丁丁付「盛九十三了」）と、四板（終丁丁付「盛衰九十九治」）がある。初板系統には、初板（八十七丁丁付の「七」が「ヒ」とみえる。八十三丁裏三行目「夢か現（うつゝ）かや。）、再板（八十七丁丁付の「七」は「七」とある。八十三丁裏三行目「夢か現（うつゝ）かや。）、三板（八十三丁裏三行目「夢か現かや。）」がある。また三板には、未改訂本（三十二丁裏二行目「母をさし置出しやばるなど。）、六十六丁裏三行目「松葉の針であいたしこ。）」と、改訂本（三十二丁裏二行目「母をさし置出すぎるなど。）、六十六丁裏三行目「松葉の針でこゝかしこ。）」とある。

【再板】 0864（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

【三板改訂本】 0801（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

〈十行〉終丁丁付「ひらかな七十」

作者 文耕堂・三好松洛・浅田可啓・竹田小出雲・千前軒（終丁裏）

元文四己未歳四月十一日（終丁裏）

※同作十行本には、角書「逆櫓松・矢叢梅」のない本、ある本がある。終丁丁付の異同を中心に示すと、前者には、い本（板心「盛」「七十治」）、ろ本（「盛六十二治」）、は本（「ひらかな七十」）がある。後者には、に本（終丁丁付なし、前丁「盛六十九」。五十丁裏八行目「こぶしをにぎりをはをならし。しほれぬ眼に泣涙。）、ほ本（終丁丁付なし、前丁「盛六十九」。五十丁裏八行目「こぶしをにぎりをはをならし。しほれぬまなこになくみだ。）、へ本（「ひらかな七十納」。「寛政五年」再板の年記もある）、がある。また作者連名の冠が異なり、い本・ろ本は無記、は本は「作者」、に本・ほ本・へ本は「作者連名」とある。これは、は本。

1004（菱屋治兵衛（京）・鱗形屋孫兵衛（江））

蛭小島武勇問答 ひるがこじまぶゆうもんどう

〈七行〉終丁丁付「蛭九十八納」

千前軒門人 作者 竹田小出雲・吉田冠子・近松半二・三好松洛・竹田滝彦（終丁表）

宝暦八年戊寅八月十九日（終丁裏）

※同作七行本には、未改修本（五十五丁表一行目「りんんで」）、改修本（同「望んで」）がある。これは改修本。

【未改修本】**0287**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

【未改修本】**0865**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

【改修本】**1005**（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

風俗太平記 ふうぞくたいへいき

角書「鳴門緋袴・鹿間掲染」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「風九十六終」

作者為永太郎兵衛（内題下）作者連名 浅田一鳥・豊岡珍平・小川半平（終丁裏）

寛保三癸亥天弥生十八日（終丁裏）

0808（正本屋九左衛門（大））

▼**0809**（西沢九左衛門（大））

藤原秀郷俵系図 ふじわらのひでさとたわらのけいず

〈十行〉終丁丁付「俵六十九了」

作者 並木宗助・安田蛙文（内題下）

※年記なし。

0297（奥付欠）

双生隅田川 ふたごすみだがわ

〈七行〉終丁丁付「水八十一終」

作者近松門左衛門（内題下）

※年記なし。

0626（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

双扇長柄松 ふたつおうぎながらのまつ

角書「紙屋治兵衛・紀伊国屋小春」

〈七行〉終丁丁付「扇九十三了」

作者連名 並木永輔・浅田一鳥・難波三藏・三津飲子・浪岡黒藏主・豊竹上野（終丁裏）

宝暦五年乙亥七月七日（終丁裏）

0810（鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大））

双蝶蝶曲輪日記 ふたつちょうちょうくるわにつき

角書「関取濡髪・名取放駒」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「双九十六納」

作者連名 竹田出雲・三好松洛・並木千柳（終丁裏）寛延二己巳年七月廿四日（終丁裏）

0811（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

0812（山本九菓亭（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・玉水源治郎（大））

0813（奥付欠）

0814（山本九菓亭（大）・玉水源治郎（大）・紙屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助（江）・加島屋清助（大））

双紋筐巢籠 ふたつもんかたみのすごもり

角書「小いな・半兵衛」

〈七行〉終丁丁付「筐三十一納」

作者 菅専助・中邑阿契（終丁裏）

明和六年己丑七月廿八日（終丁裏）

※初板は、『北浜名物黒船噺』と合刻。のちに単行される。これは単行本。

0815（奥付欠）

振袖天神記 ふりそでてんじんき

角書「誕生梅・蕪生松」

〈七行〉終丁丁付「振袖九十五畢」

作者連名 近松半二・近松桃南・松田才二・三好松

洛（終丁裏）

明和六己丑年正月廿七日（終丁裏）

※同作七行本には、未改修本（四十七丁表二行目「畜類ならすらず」。五十丁裏一行目「常闇の夜と」と、改修本（四十七丁表二行目「畜類ならしらず」。五十丁裏一行目「常闇の世と）」がある。

【未改修本】0816（奥付欠。初丁欠。巻頭に補写1丁あり）

【未改修本】0818（山本九兵衛（京）・吉川宗兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

【改修本】0817（竹中清助（大））

振袖操大全 ふりそでみさおたいぜん

角書「源氏清和の・末流桜の盛」

〈七行〉終丁丁付「操九十五大尾」

作者 松貫四・友三郎・鬼眼（終丁裏）

安永五年申正月二日（終丁裏）

※『桜姫操大全』の改題本。さらに『振袖操大全』を原題に戻した本も残る（再改題本には角書「血汐誓言・親舅仇討」とある）。

0819（上総屋利兵衛（江））

武烈天皇儀 ぶれつてんのうふなよそおい

角書「鱗振山姿石・玉穂都花筐」（題簽）

〈七行〉終丁丁付「武百」

作者為永太郎兵衛（内題下）

※年記なし。

0820（奥付欠）

〈十行〉終丁丁付「武六十九了」

作者為永太郎兵衛（内題下）

※年記なし。

1006（奥付欠）

文武世継梅 ぶんぶよつぎのむめ

角書「源頼信・源頼親」

〈十行〉終丁丁付「文七十了」

作者 並木千柳・三好松洛（終丁裏）

寛延三歳午霜月廿四日（終丁裏）

0060（鱗形屋孫兵衛（江）・八文字屋八左衛門（京））

北条時頼記 ほうじょうじらいき

〈七行〉終丁丁付「時九十三」

作者 西沢一風・並木宗助（内題下）

※年記なし。同作七行本には、初板（七丁表四行目「桐が谷まで」の「桐」に、振り仮名がない）と、再板（振り仮名がある）とがある。また初板には、未改修本（内題下「作者 西沢一風・並木宗助」と、改修本（内題下「作者西沢一風」と埋木）がある。署名「作者西沢一風」とある本は、延享二年十一月の越前少掾引退興行再演時の改修本。これは再板。

0320（鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大））

0866（奥付欠）

北条時頼記 →花筐女鉢木 はながたみおんなはちのき モミヨ

星兜弓勢鑑 ほしかぶとゆんぜいかがみ

〈七行〉終丁丁付

作者 並木永輔・並木才二・浅田一鳥・寺田兵蔵・豊竹応律（終丁裏）

明和四年丁亥正月三日（終丁裏）

1007（奥付欠。終丁裏欠、「星九十五」の次丁表まで）

仏御前扇軍 ほとけごぜんおうぎいくさ

角書「妓王・妓女」

〈七行〉終丁丁付「仏八十七了」

近松門左衛門添削・作者松田和吉（内題下）

※年記なし。

0321（奥付欠）

0821（奥付欠。終丁欠）

〈十二行〉終丁丁付「仏卅了」

近松門左衛門添削・作者松田和吉（内題下）

※年記なし。

0591（鶴屋喜右衛門（京））

本卦復昔曆 ほんけがえりむかしこよみ

〈七行〉終丁丁付「昔曆七十畢」

作者 北脇素仁・梁塵軒・中邑阿契（終丁裏）

明和八辛卯年蠟月廿五日（終丁裏）

※同作七行本には、未改修本（年記「蠟月」）、改修本（虫偏を埋木して「臘」とする）がある。これは改修本。

0867（正本屋小兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江））

本田善光日本鑑 ほんだよしみつやまとかがみ

〈六行〉終丁丁付「善百」

作者為永太郎兵衛（内題下）

※年記なし。

0322 (奥付欠)

0802 (奥付欠)

本朝三国志 ほんちょうさんごくし

〈七行〉終丁丁付「長八十一終」

作者近松門左衛門 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、山本板 (終丁丁付「長八十一終」、他書肆板 (終丁丁付「三八十一了」) がある。これは山本板。

0030 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

本朝檀特山 ほんちょうだんどくせん

角書「一休和尚・蜷川新右衛門」

〈七行〉終丁丁付「一休九十三」

作者 並木宗助・安田蛙文 (内題下)

※年記なし。内題「檀特山」に「たんどくせん」と振り仮名がある。同作七行本には、未改修本 (四十九丁表三行目「実父 (しつふ) の小鳥に」、七十丁裏四行目「仰に諸共」、七十九丁表四行目「わしがなりかはり。」、第一次改修本 (七十九丁表四行目「おれがなりかはり。」、第二次改修本 (四十九丁表三行目「又実 (じつ) 父 (ふ) の小鳥に」、七十丁裏四行目「仰におやこ」) がある。

【第二次改修本】1008 (正本屋九左衛門 (大))

本朝廿四孝 ほんちょうにじゅうしこう

角書「武田信玄・長尾謙信」

〈七行〉終丁丁付「孝九十八治」

作者 近松半二・三好松洛・竹田因幡・竹田小出・竹田平七・竹本三郎兵衛 (終丁裏)

明和三年丙戌正月十四日 (終丁裏)

▼1009 (山本九兵衛 (京)・吉川宗兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

〈十行〉終丁丁付「孝六十五治」

作者 近松半二・三好松洛・竹田因幡・竹田小出・竹田平七・竹本三郎兵衛 (終丁裏)

明和三年丙戌正月十四日 (終丁裏)

0961 (菊屋七郎兵衛 (京))

本町糸屋娘 ほんまちいとやのむすめ

角書「姉は若草・妹は初音」

〈七行〉終丁丁付「桜百七納」

作者 添削佐川藤太・佐川萩丸・吉田新吾 (終丁表)
于時文化十癸酉年九月八日 (終丁表)

※同作七行本には、未改修本 (終丁丁付「桜百七納」。終丁裏に役割、後ろ見返しに奥付がある) と、改修本 (終丁丁付「糸百七終」。役割・奥付なし。本文、後ろ見返しまで)。改修本の作者署名では、佐川藤太の肩書「添削」はない。これは未改修本。

▼0323 (八木治兵衛 (京)・松本平助 (江)・玉水源治郎 (大)・小林六兵衛 (大)・玉置清七 (大)・広岡安兵衛 (大)・前田喜兵衛 (大)・佐々井治郎右衛門 (大))

万戸將軍唐日記 まんこしょうぐんもろこしにつき

〈七行〉終丁丁付「万百五了」

作者梁塵軒 (終丁裏)

延享四丁卯年弥生廿二日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (作者署名「作者梁塵軒」。九十九丁に続く節事「乱曲富貴戯」二丁丁付:「万らん一」「万らん二了」、第一次改修本 (作者署名「作者 浅田一鳥・但見弥四郎・梁塵軒」、第二次改修本 (「乱曲富貴戯」二丁丁付:「万百」「万百一」) がある。これは第一次改修本。

1010 (正本屋九左衛門 (大))

〈十行〉終丁丁付「万七十治」

作者 浅田一鳥・但見弥四郎・梁塵軒 (終丁裏)

延享四丁卯年弥生廿二日 (終丁裏)

0962 (鱗形屋孫兵衛 (江)・八文字屋八左衛門 (京))

身替彌張月 みがわりゆみはりづき

角書「美丈御前・幸寿丸」

〈七行〉終丁丁付「身八十四終」

作者 西沢一風・田中千柳 (内題下)

※年記なし。内題に「みがはりゆみはりづき」と振り仮名がある。

0592 (奥付欠。墨書の奥付「正本屋九左衛門 (大)」がある)

0803 (奥付欠)

〈十行〉終丁丁付「身五十四了」

作者 西沢一風・田中千柳 (内題下)

※年記なし。

0009 (菱屋治兵衛 (京))

三国小女郎曙桜 みくにこじょうらうあけぼのぎくら

角書「玉谷新兵衛・出村新兵衛」

〈七行〉終丁丁付「三國百大尾」

作者 難波三蔵・豊竹上野 (終丁裏)
宝暦五乙亥年四月廿一日 (終丁裏)
0804 (奥付欠)

三日太平記 みっかたいへいき

角書「泉州小田居茶屋・摂州殿下茶屋」
〈七行〉終丁丁付「三日九十五治」
近松半二・三好松洛・八民平七・竹本三郎兵衛 (終丁裏)
明和四年丁亥臘月十四日 (終丁裏)
▼0805 (山本九兵衛 (京)・吉川宗兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))
〈十行〉終丁丁付「三日六十四治」
近松半二・三好松洛・八民平七・竹本三郎兵衛 (終丁裏)
明和四年丁亥臘月十四日 (終丁裏)
0922 (菱屋治兵衛 (京))

御堂前菖蒲帷子 みどうのまえしょうぶかたびら

〈七行〉終丁丁付「帷子九十六畢」
作者 菅専助・豊竹応律・豊慶三・若竹笛躬 (終丁裏)
安永七戊戌年正月廿六日 (終丁裏)
0963 (奥付欠)

迎駕籠死期茜染 むかいかごちしごのあかねぞめ

角書「梅野・由兵衛」
〈七行〉終丁丁付「迎駕七十二畢」
作者 竹本三郎兵衛・寺田兵蔵 (終丁裏)
明和八辛卯年八月十四日 (終丁裏)
▼0806 (鱗形屋孫兵衛 (江)・阿波屋平七 (大))

昔男春日野小町 むかしおとこかすがのごまち

〈七行〉終丁丁付「昔九十五畢」
作者 故竹田出雲・竹田滝彦 (内題下) 千前軒門人
作者 竹田小出雲・北窓後一・竹土丸・近松半二 (終丁表)
宝暦七年丁丑十二月十五日 (終丁裏)
▼0288 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))
▼0964 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))
〈十行〉終丁丁付「昔男七十了」
作者 故竹田出雲・竹田滝彦 (内題下) 千前軒門人

作者 竹田小出雲・北窓後一・竹土丸・近松半二 (終丁裏)
宝暦七年丁丑十二月十五日 (終丁裏)
0059 (鶴屋喜右衛門 (江)・鶴屋喜右衛門 (京))

往古曾根崎村噂 むかしむかしそねざきむらのうわさ

角書「おはつ・徳兵衛」
〈六行〉終丁丁付「曾根崎八十一畢」
作者 近松半二・近松善平 (終丁表)
安永七戊戌年九月廿三日 (終丁表)
※同作七行本には、未改修本 (巻頭二丁と以下の書体が揃う)、改修本 (板木差替のため巻頭二丁と以下の書体が揃わない) がある。これは未改修本。
▼0063 (天満屋源治郎 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江)・伝法屋吉九郎 (大))
▼0836 (天満屋源治郎 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江)・伝法屋吉九郎 (大))

嬢景清八島日記 むすめかげきよやしまにつき

〈七行〉終丁丁付「八島筐百納」
若竹笛躬・黒蔵主・中邑阿契／輯之 (終丁裏)
明和元甲申歳十月廿一日 (終丁裏)
※書誌は、未改修本に拠る。同作七行本には、未改修本 (終丁丁付「八島筐百納」。五段目節事「追善記念餅」あり)、改修本 (終丁丁付「景清九十三納」。五段目節事「追善記念餅」なし。「明和乙酉年正月十一日」(終丁裏)) がある。これは改修本。
0872 (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

室町千畳敷 むろまちせんじょうじき

〈七行〉終丁丁付「女夫九十五終」
作者 近松門左衛門 (内題下)
※年記なし。『津国女夫池』の改題本。同作七行本には、未改修本と改修本がある。改修本は、『室町千畳敷』への改作に伴い新刻した丁を、旧の『津国女夫池』に復したもの (内題以外、内容は原作に戻っている)。これは未改修本。
【未改修本】①女夫四十三の次の二丁：「室道一」「室道二」(一オ1「道行旅のはら帯」、②女夫七十七の次の九丁：「室新壺」～「室新四」、室新五～室新八(梓なし)、「室新九」(壺ウ1「新御殿ねみだれ髪」)。③室新九の次丁、「女夫九十一」丁表の、一・二行目

は削除(空白)、三行目標題「第五」。

【改修本】①「女夫四十四」「女夫四十五」(四十四オ1「第三 旅のはら帯」、②「女夫七十八」～「女夫九十」、「女夫七十八」ウ1「千畳敷其世かたり」。
③「女夫九十一」丁表の、一・二行目は四段目段切(本文あり)、三行目標題「第五」。

0039 (奥付欠。終丁欠)

比良御陣雪舩形 めいしよごじんゆきのますがた

〈七行〉終丁丁付「舩百十五終」

作者 梅野下風・スケ中村魚眼(終丁裏)

寛政十戊午年睦月廿八日(終丁裏)

※同作七行本には、未改修本(巻末五丁丁付:「舩十四」「舩十一ノ十二」「舩十一ノ十三」「舩百十五終」)、改修本(「舩十一ノ十三」「舩十一ノ十二」「(空欄)」「舩十四」「舩百十五終」)がある。これは未改修本。

1011 (奥付欠)

名筆傾城鑑 めいひつけいせいかがみ

角書「敦賀の遠山・花洛の葛城」

〈七行〉終丁丁付「名七十六終」

作者 吉田冠子・中邑閏助・三好松洛(終丁裏)

宝暦貳年壬申三月廿三日(終丁裏)

0014 (山本九葉亭(大)・玉水源治郎(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・紙屋与右衛門(大))

伽羅先代萩 めいぼくせんだいはぎ

角書「奥州秀衡・遺跡争論」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「先代百六」

作者 松貫四・高橋武兵衛・吉田角丸(終丁裏)

天明五年巳正月(終丁裏)

※安永七年九月京都『伽羅先代萩』の、江戸での改作。以後、人形浄瑠璃、歌舞伎ともに同江戸改作本が行なわれた。同作七行本には、未完本(本文「第六」まで。「先代七十五」の次が終丁)と、完本(本文「第九」まで。「先代百六」)がある。これらは完本。

0593 (松本屋万吉(江)・上総屋利兵衛(江))

1012 (松本屋万吉(江)・石渡利助(江))

驪山比翼塚 めぐろのひよくづか

角書「白井権八・幡随長兵衛」

〈七行〉終丁丁付「比翼百十納」

作者 森羅万象改源平藤橘・海一沫・吉田鬼眼・達

田弁二(終丁裏)

安永八己亥年七月七日(終丁裏)

▼0837 (松本屋万吉(江)・上総屋利兵衛(江))

寿館狐馬懸 めっぼうやかたきつねのうまかけ → 容競唐土嘶ヲミヨ

持丸長者金笄剣 もちまるちょうじゃこがねのかんざし

角書「昔淀屋壁に・当世の落書」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「金九十尾」

作者 近松やなぎ(終丁裏)

寛政六甲寅年三月二日(終丁裏)

※同作七行本には、未改修本(五冊目冒頭丁付「金五十七」「金五十八」)、改修本(「金又五十七」「金五十八」)がある。これは改修本。

0984 (菊屋七郎兵衛(京)・正本屋小兵衛(大)・播磨屋善助(大)・和多屋喜兵衛(大))

物ぐさ太郎 ものぐさたろう

角書「十帖・源氏」

〈十行〉終丁丁付「物七十了」

作者 浅田一鳥・安田蛙桂・豊丈助・豊正助・難波三蔵(終丁裏)

寛延貳己巳年十一月四日(終丁裏)

0064 (奥付欠)

梶狩剣本地 もみじがりつるぎのほんじ

〈七行〉終丁丁付「平九十四終」

近松門左衛門作(内題下)

※年記なし。同作七行本には、山本板(終丁丁付「平九十四終」、内題下「近松門左衛門作」)、他書肆板(終丁丁付「絶八十四了」、内題下「作者近松門左衛門」)がある。これは山本板。

0627 (山本九葉亭(大)・玉水源治郎(大)・今井七郎兵衛(京)・松本平助(江)・紙屋与右衛門(大))

八重霞浪花浜荻 やえがすみなにわのはまおぎ

〈七行〉終丁丁付「八重八十五終」(白抜き)

作者 豊丈助・安田蛙桂・豊正助・浅田一鳥(終丁裏)

寛延貳己巳歳弥生廿六日(終丁裏)

0985 (西沢九葉軒(大)・玉水源治郎(大)・紙

屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大)

0965 (奥付欠)

山崎与次兵衛寿の門松 やまざきよじべえねびきのかどまつ

〈七行〉終丁丁付「山四十三終」

作者近松門左衛門 (内題下)

※同作七行本には、未改修本 (道行三丁目表七行目「せいぼくに」)、改訂本 (同「せいぼくに」) がある。これは未改修本 (改訂本を経て、再び初板に戻した本)。

0022 (山本九葉亭 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・玉水源治郎 (大))

倭歌月見松 やまとうたつきみのまつ

〈七行〉終丁丁付「月見松百納」

作者 菅専助・安田阿契・若竹十九・若竹笛躬 (終丁裏)

于時安永四乙未年九月八日 (終丁裏)

▼ 0289 (正本屋小兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

0873 (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

0986 (奥付欠)

倭仮名在原系図 やまとながなありわらけいず

〈七行〉終丁丁付「倭百三畢」

作者 浅田一鳥・浪岡鯨児・並木素柳・豊竹甚六 (終丁裏)

宝曆式壬申年大呂七日 (終丁裏)

※同作七行本には、巻頭二丁の板木について、未差替本と、差替本とがある。これは未差替本。

0324 (奥付欠)

▼ 0594 (鱗形屋孫兵衛 (江)・西沢九左衛門 (大))

額緞紺屋譜 ゆいがのここうやのけいず

角書「島原の青楼に・契情の籠城と・玉川の妾宅に・豪傑の会合を」(題簽)

〈七行〉終丁丁付「譜百三大尾」

浄瑠璃作者連名 初段中村魚眼・中入並木千柳・式段目紀上太郎・三段目唯我独楽・四段目中村魚眼若竹笛躬・五段目中村魚眼 (終丁裏)

于時寛政十一己未歳四月八日 (終丁表)

▼ 0595 (藤井孫兵衛 (京)・八木治兵衛 (京)・

前川六左衛門 (江)・西宮新六 (江)・宮崎半兵衛 (大)・武田宗輔 (大))

有職鎌倉山 ゆうしょくかまくらやま

〈七行〉終丁丁付「有九十六納」

作者 菅専助・中村魚眼 (終丁表)

寛政元巳酉年六月廿二日 (終丁表)

※同作七行本には、初板 (年記「寛政元己酉年」) と、再板 (加えて「寛政四壬子年秋再板」もある) がある。また初板には、未改修本 (五十四丁裏一行目「早五ツとせ。そなたも五ツ」。壺丁裏三行目「武将」、五十壺丁裏五行目「武将」、第一次改修本 (五十四丁裏一行目「早五ツ年セ其時生れたそなたも五ツ」)、第二次改修本 (五十壺丁裏五行目「大将」埋木)、第三次改修本 (壺丁裏三行目「大将」埋木) がある。

【初板第三次改修本】0966 (菊屋七郎兵衛 (京)・正本屋小兵衛 (大))

【初板第三次改修本】0987 (菊屋七郎兵衛 (京)・正本屋小兵衛 (大))

【再板】0952 (竹中清助 (大))

行平磯馴松 ゆきひらそなれまつ

〈七行〉終丁丁付「行八十九了」

作者 文耕堂・竹田正蔵・三好松洛 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、未改修本 (「形見忍夫摺」の丁付:「行景一」、「行景 [アキ]」二、「行景 [アキ]」三了)、第一次改修本 (「行景■」、「行景■」二、「行景■」三了)、第二次改修本 (「行景■」、「行景■」二、「行景七十七」三了) がある。これは第二次改修本。

0325 (山本九兵衛 (京)・山本九右衛門 (大))

0988 (奥付欠)

融通大念仏 ゆずうだいねんぶつ

角書「亀鉦事略・片袖縁起」

〈七行〉終丁丁付「大念仏四十五了」

作者佐川藤太・添削吉田新吾 (終丁表)

文化八辛未年五月再板 (終丁表)

▼ 0874 (西沢九左衛門 (大)・松本平助 (江)・今井七郎兵衛 (京)・八木治兵衛 (京)・玉置清七 (大))

▼ 0953 (西沢九左衛門 (大)・松本平助 (江)・今井七郎兵衛 (京)・八木治兵衛 (京)・玉置清七 (大))

由良湊千軒長者 ゆらのみなどせんげんちょうじゃ
〈七行〉終丁丁付「由良九十一治」

竹田小出雲（内題下）千前軒門人 作者 二歩軒・
近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終
丁表）

宝暦十一年辛巳五月十六日（終丁裏）

0989（加島清助（大））

0990（奥付欠。終丁裏欠）

0954（奥付欠）

0955（山本九兵衛（京）・鱗形屋孫兵衛（江）・
天満屋源治郎（大））

百合稚高麗軍記 ゆりわかこうらいぐんき
〈七行〉終丁丁付「百合九十六」

作者為永太郎兵衛。文者 並木宗輔・浅田一鳥（終
丁裏）

寛保二壬戌天弥生三日（終丁裏）

▼ **0596**（正本屋九左衛門（大））

〈十行〉終丁丁付「ゆり六十二終」

作者為永太郎兵衛。文者 並木宗輔・浅田一鳥（終
丁裏）

寛保二壬戌天弥生三日（終丁裏）

0015（奥付欠）

0298（鱗形屋孫兵衛（江）・八文字屋八左衛門
（京））

百合若大臣野守鏡 ゆりわかだいじんのもりのかがみ
〈十行〉終丁丁付「百合三十七了」

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。同作十行本には、山本板（終丁丁付「百
合三十七了」）、他書肆板（終丁丁付・板心「百合」「卅三」）
がある。これは山本板。

0036（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

弓勢智勇湊 ゆんぜいちゆうのみなど
〈七行〉終丁丁付「弓九十八大尾」

福内鬼外戯作・補助吉田仲治（終丁裏）

明和八年辛卯正月廿日（終丁裏）

1323（奥付欠）

宵庚申 よいごうしん

〈七行〉終丁丁付「庚四十七終」

作者近松門左衛門（内題下）

※年記なし。『心中宵庚申』の改題本。同作七行本

には、未改修本（四十一丁表一行目道行標題「みち行」）、
改修本（「道行思ひの短夜」）がある。これは改修本。

0628（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

用明天王鐘入の段 ようめいてんのうかねいりのだん
〈七行〉終丁丁付なし（前丁「鐘三」）

宝暦九年己卯五月吉日（奥付）

※作者署名なし。巻頭に一丁あって、表に口上、裏
に竹本座仮芝居前の図を載せる。本文は終丁表ま
で、終丁裏に跋文と刊記（年記・板元名）がある。

0277（正本屋山本九右衛門（大））

用明天王職人鑑 ようめいてんのうしよくにんかがみ
〈七行〉終丁丁付「文武七十三了」

近松門左衛門作（内題下）

※年記なし。

0042（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

0629（奥付欠）

義経腰越状 よしつねこしごえじょう

〈七行〉終丁丁付なし（前丁「腰六十」）

宝暦甲戌初秋念九（跋）

※書誌は未完未改修本に拠る。『南蛮鉄後藤目貫』
の改題本。同作七行本には、未完本（「第三」まで。
終丁丁付「腰六十」）と、完本（「腰九十三畢」）がある。
また未完本には、未改修本（「腰四十二」丁付陰刻。跋
文あり）と、改修本（「腰四十二」丁付陽刻。跋文なし）
がある。明和元年十二月初演『嬢景清八島日記』へ
「第三」板木を転用した後に、同段を補ったものが、
改修本。なお完本は、未完改修本に「第四」以下を
補ったもの。

▼【未完未改修本】**0956**（鱗形屋孫兵衛（江）・
西沢九左衛門（大））

【未完改修本】**0991**（万屋仁右衛門（京）・正本
屋清兵衛（大）・吉文字屋治郎兵衛（江））

【未完改修本】**0957**（吉文字屋治郎兵衛（江）・
万屋仁右衛門（京））

【完本】**0958**（西沢九葉軒（大）・玉水源治郎（大）・
紙屋与右衛門（大）・今井七郎兵衛（京）・松本平助
（江）・加島屋清助（大））

義経腰越状 → 腰越状四段目丸一段 こしごえ
じょうよだんめまるいちだん モミヨ

義経千本桜 よしつねせんぼんざくら

角書「大物船矢倉・吉野花矢倉」

〈七行〉終丁丁付「千百終」

作者 竹田出雲・三好松洛・並木千柳 (終丁裏)

延享四丁卯年霜月十六日 (終丁裏)

※同作七行本には、初板 (終丁丁付「千百終」) と、再板 (「千本百終」) がある。初板には、未改修本 (五十九丁裏六行目「おんどの瀬戸にて船乗りすへ。三千両の金わけ取に致した船頭、九十丁裏四行目「宿酬 (しゆくしう)」、第一次改修本 (九十丁裏四行目「宿酬 (しゆくじう)」、第二次改修本 (五十九丁裏六行目「おんどの瀬戸にて三千両の金盗とられ。役目の難義」) がある。これは再板。

0053 (山本九葉亭 (大)・玉水源治郎 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・紙屋与右衛門 (大))

0992 (山本九葉亭 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・玉水源治郎 (大))

〈十行〉終丁丁付「千本七十治」

作者 竹田出雲・三好松洛・並木千柳 (終丁裏)

延享四丁卯年霜月十六日 (終丁裏)

※同作十行本には、い本 (終丁丁付「千本七十治」)、ろ本 (終丁丁付「千七十治」) がある。これは、い本。

0993 (鱗形屋孫兵衛 (江)・八文字屋八左衛門 (京))

義仲勲功記 よしなかくんこうき

〈七行〉終丁丁付「義百大尾」

作者連名 浅田一鳥・黒藏子・七才子・難波三蔵・豊竹応律 (終丁裏)

宝暦六年丙子三月十八日 (終丁裏)

※同作七行本には、初板 (終丁丁付「義百大尾」) と、再板 (「義百一大尾」) とがある。初板には、未改修本 (作者二人目「黒藏子」) と、改修本 (「黒藏主」) がある。また再板には、未改修本 (内題の上「再・判」と記す)、改修本 (「再・判」) がある。

【初板未改修本】**0853** (奥付欠)

【再板改修本】**0838** (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

【再板改修本】**0994** (西沢九葉軒 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・玉水源治郎 (大))

〈十行〉終丁丁付「義七十大尾」

作者連名 浅田一鳥・黒藏主・七才子・難波三蔵・

豊竹応律 (終丁裏)

宝暦六年丙子三月十八日 (終丁裏)

0299 (菱屋治兵衛 (京))

吉野都女楠 よしののみやおんなくすのき

〈十一行〉終丁丁付・板心「女」「卅四」。

近松門左衛門作 (内題下)

※年記なし。

0041 (奥付欠。終丁欠)

呼子鳥小栗実記 よぶこどりおぐりじつき

〈七行〉終丁丁付「呼子七十二畢」

作者 菅専助・若竹笛躬 (終丁裏)

于時安永式癸巳歳八月廿七日 (終丁裏)

▼**0326** (巻末欠。正本屋小兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

頼政扇子芝 よりまさおうぎのしば

〈七行〉終丁丁付・板心「頼」「九十」

作者 西沢一風・田中千柳 (内題下)

※年記なし。『頼政追善芝』の改題本。享保十三年改題『頼政扇の芝』(包紙。題簽には「頼政扇子芝」)は、包紙・題簽の上でのいわゆる外題替であったが、宝暦元年再演時に至って内題を埋木して改めた。これは宝暦元年改修本。

0995 (鱗形屋孫兵衛 (江)・西沢九左衛門 (大))

0996 (鱗形屋孫兵衛 (江)・西沢九左衛門 (大))

頼政追善芝 よりまさついでんのしば

〈七行〉終丁丁付・板心「頼」「九十」

作者 西沢一風・田中千柳 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、未改修本 (廿九丁の前丁丁付「廿七」)、改修本 (「廿七八」) がある。これは改修本。のちに享保十三年・宝暦元年七月『頼政扇子芝』と改題される。

なお当該本と同板の奥付をもち、原装・原題簽を留める関西大学図書館・天理大学附属天理図書館本の題簽には「頼政扇子芝」とある。享保十三年の改題上演時の刊行本のひとつと判る (当該本巻頭の補写に「頼政扇子芝」とあるのは、題簽題に基づくものか)。

0959 (初丁表・終丁欠。正本屋九左衛門 (大))

〈十行〉終丁丁付「追五十七了」

作者 西沢一風・田中千柳 (内題下)

※年記なし。

0997 (菊屋七郎兵衛 (京))

洛陽瓢念仏 らくようひさごねんぶつ

〈七行〉終丁丁付「洛九十六納」

作者梁塵軒 (終丁裏)

宝暦十三年未三月六日 (終丁裏)

※同作七行本には、未改修本 (十五丁表一行目「関八州を引き出物。」、八十丁裏六行目「将門公天下掌握 (しやうあく)」、改修本 (十五丁表一行目「八ヶ国を引き出物。」、八十丁裏六行目「将門公南面 (なんめん) の位) がある。これは未改修本。

0967 (奥付欠)

蘭奢待新田系図 らんじゃたいにったけいず

〈七行〉終丁丁付「蘭九十六終」

千前軒門人 作者 近松半二・竹田平七・竹本三郎兵衛 (終丁表)

明和二年乙酉二月九日 (終丁表)

※同作七行本には、未改修本 (終丁裏浄瑠璃太夫連名九人目「竹本八百太夫」)、改修本 (「竹本八尾太夫) がある。これは未改修本。

0968 (奥付欠)

▼0969 (山本九兵衛 (京)・吉川宗兵衛 (大)・鱗形屋孫兵衛 (江))

立春姫小松 りっしゅんひめこまつ

角書「子の載・子の日」(七行本)、「子の歳・子の日」(十行本)

〈七行〉終丁丁付「立春百壹畢」

増補作者 青江堂・原羽裳・吉田冠子 (終丁表)

安永九庚子年正月七日 (終丁表)

▼0970 (山本九兵衛 (京)・鱗形屋孫兵衛 (江)・天満屋源治郎 (大))

嫩榕葉相生源氏 わかみどりあいおいげんじ

〈七行〉終丁丁付なし (前丁「相生七十四」)

福内鬼外誌 (跋)

安永二年癸巳二月三十日 (跋)

※同作七行本には、未改修本 (巻末五丁丁付「相生七十二」「相生七十四」「相生七十五」「相生七十四」「(ナシ)」、第一次改修本 (「相生七十二」「相生七十三」「相生七十四」「相生七十四」「(ナシ)」、第二次改修本 (巻末丁付「相生七十二」「相生七十三」「相生七十四」「相生七十五」「(ナシ)」) がある。これは未改修本。

▼1324 (山崎金兵衛 (江))

和田合戦女舞鶴 わだかっせんおんなまいづる

〈七行〉終丁丁付「和九十五」

作者並木宗輔 (内題下)

※年記なし。同作七行本には、初板 (四十丁裏七行末「別れゆく)、再板 (四十丁裏七行末「別れゆ) がある。また初板には、未改修本 (内題下「作者並木宗輔) と、第一次改修本 (内題下「座本豊竹越前少掾) と埋木。左の本文「を」と並ぶ、第二次改修本 (内題下「座本豊竹越前少掾)、板木新刻。左の本文「甲兵」と並ぶ) がある。

【初板第一次改修本】0971 (西沢九左衛門 (大))

【再板】0597 (西沢九葉軒 (大)・玉水源治郎 (大)・紙屋与右衛門 (大)・今井七郎兵衛 (京)・松本平助 (江)・加島屋清助 (大))

椀久末松山 わんきゅうすえのまつやま

〈十行〉終丁丁付・板心「わん」「十四」。

作者紀海音 (内題下)

※年記なし。

0998 (糸屋市兵衛 (大))

【道行揃】

音曲太平楽 おんぎょくたいへいらく

〈十一行〉終丁丁付「つるき三了」

※横本。巻頭に二丁あって、「音曲太平楽」目録を載せる(太平一・太平二)。冒頭標題「道行旅路の濡衣 近江源氏」。『近江源氏先陣館』初演は明和六年十二月。刊は、明和七年正月カ。

1278 (鶴屋喜右衛門 (京)・八文字屋八左衛門 (京)・菱屋治兵衛 (京)・菊屋七郎兵衛 (京))

音曲調子競 おんぎょくちょうしくらべ

〈十一行〉終丁丁付「十長二了」

※横本。巻頭に二丁あって、「音曲調子競・惣目録」を載せる。冒頭標題「道行旅路の嫁入」。『仮名手本忠臣蔵』初演は寛延元年八月。同年十一月豊竹座『摂州渡辺橋供養』を収めないのので、忠臣蔵初演直後の刊とみる。

1268 (正本屋仁兵衛 (大))

音曲調子笛 おんぎょくちょうしぶえ

〈五行〉終丁丁付・板心「百七十」

※小本。巻頭に四丁あって、「序」半丁、「音曲調子笛・目録」三丁半を載せる(板心「初目」、目一・目二・目三)。冒頭標題「道行思ひのふゞき」。『日高川入相花王』初演は宝暦九年二月初演。この頃の刊とみる。

1266 (天満屋玉水源治郎 (大))

音曲通天桜 おんぎょくつうてんざくら

〈十一行〉終丁丁付「十長二了」

※横本。巻頭に二丁あって、「音曲通天桜・惣目録」を載せる。冒頭標題「道行花の追風 嫩軍記」。『一谷嫩軍記』初演は宝暦元年十二月。刊は翌宝暦二年カ。

1274 (正本屋仁兵衛 (大))

音曲軒玉水 おんぎょくのきのたまみず

〈十一行〉終丁丁付「屏三了」

※横本。巻頭に一丁あって、「音曲軒玉水 目録」を記す。冒頭標題「伊豆院宣源氏鏡 道行頼朝江島詣」。『伊豆院宣源氏鏡』初演は寛保元年正月。刊はこの頃か。

1279 (糸屋市兵衛 (大))

音曲初日山 おんぎょくはつひやま

〈十一行〉終丁丁付「色正二了」

※横本。巻頭に二丁あって、「音曲初日山」一丁半、序文半丁を記す。冒頭標題「甲斐源氏桜軍配 道行野分の袂」。『甲斐源氏桜軍配』初演は宝暦六年閏十一月。刊は宝暦七年正月カ。

1275 (糸屋市兵衛 (大))

音曲姫舎松 おんぎょくひめすてまつ

〈十一行〉終丁丁付「江戸お七二了」

※横本。巻頭に二丁あって、「音曲姫舎松・惣目録」を記す(目一・目二了)。冒頭標題「鷗山姫舎松 道行六ツの花足駄」。『鷗山姫舎松』初演は元文五年二月。四月『本田善光日本鑑』を収めないのので、初演直後の刊とみる。

1271 (正本屋仁兵衛 (大))

音曲莠大全 おんぎょくふたばたいぜん

〈六行〉終丁丁付「ひやうふ三了」

※現在は二冊に別れているが、元は一冊であったと考える。所収曲の各初丁の板心に通しの番号を与える点に特徴がある。冒頭標題①「昔男春日野小町 道行千種の戎うた」、②「祇園祭礼信長記 道行憂蓑笠」、③「前九年奥州合戦 道行ふすみの友枕」、④「姫小松子日の遊 道行心の竹馬」。①～③は板心に番号なし。④の初丁板心に「一」に陰刻。①②の初演は、宝暦七年十二月。刊は翌年正月カ。

0062 (前半のみ。通し番号「廿四まで」)

0261 (奥付欠。後半のみ。通し番号「廿五」～)

音曲莠宝蔵 おんぎょくふたばほうぞう

〈十一行〉終丁丁付「行景二了」

※横本。巻頭に二丁あって、序半丁、惣目録一丁半を載せる。冒頭標題「古戦場鐘懸の松 せんじゆの前・きやうの君／道行」。『古戦場鐘懸の松』初演は宝暦十一年十一月。刊は翌年正月カ。

1273 (天満屋玉水源二郎 (大))

【音曲豊年蔵】 おんぎょくほうねんぐら

〈七行〉終丁丁付「古三了」

※巻頭に三丁あって、目録を載せる（「[虫損] 目一」「蔵ノ二」「丁付なし」）。目録標題部分を欠くが、わずかに振り仮名「くほうねんぐら」と残る。冒頭標題「菅丞相冥加の松梅」。これは竹本播磨少掾（初代竹本政太夫）の受領披露の演目。元文二年正月の刊と推定する。

0260（奥付欠）

音曲待兼山 おんぎょくまちかねやま

〈十一行〉終丁丁付「十長二了」

※横本。巻頭に二丁あって、「音曲待兼山」目録を記す。冒頭標題「いろは歌義臣鑿 道行旅のおだまき」。『いろは歌義臣鑿』初演は明和元年閏十二月。刊は明和二年正月か。

1277（糸屋市兵衛（大））

浄瑠璃唐二色 じょうりりからにしき

〈十一行〉終丁丁付「十長二了」

※横本。巻頭に二丁あって、「浄瑠璃唐二色 惣目録」を載せる。冒頭標題「道行初音旅」。『義経千本桜』初演は延享四年十一月。刊は寛延元年か。

1272（正本屋仁兵衛（大））

浄瑠璃杣嶽 じょうりりそまがたけ

〈十一行〉終丁丁付「まちや二了」

※横本。巻頭に「浄瑠璃杣嶽」目録二丁がある（杣目一、丁付なし）。冒頭標題「道行二葉の緑」。『赤沢山伊東伝記』初演は享保十六年十月。刊は翌年正月か。

1280（奥付欠）

浄瑠璃二軒操 じょうりりにけんあやつり

〈十一行〉終丁丁付・板心「五十一」

※横本。巻頭に一丁あって、「浄瑠璃二間操 惣目録」を載せる。冒頭標題「兵衛佐児鎧」。『伊勢平氏年々鑑』初演は享保十一年九月。刊は享保十二年正月か。

1276（正本屋平兵衛（大））

浄瑠璃見取丸 じょうりりみどりまる

〈十五行〉終丁丁付・板心「道行」「四十七」

※横本。巻頭に一丁あって、「浄瑠璃見取丸 竹本

筑後掾正本」目録を載せる。冒頭標題「一心五戒魂かほる姫道行」。

1267（正本屋九左衛門（大））

竹本一番勝 たけもといちばんがち

〈十一行〉終丁丁付「幾六十一」

※横本。巻頭に一丁あって、「竹本一番勝惣目録 竹本筑後掾直伝」を載せる（丁付なし）。冒頭標題「大塔宮曦鎧 三段目」。『大塔宮曦鎧』初演は享保八年二月。刊はこのころか。

1270（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））

竹本常盤松 たけもとときわのまつ

〈十一行〉終丁丁付「相五了」

※横本。巻頭に一丁あって、「竹本常盤松目録 竹本筑後掾直伝」を記す。冒頭標題「道行梅追風」。『応神天皇八白幡』初演は享保十九年二月。刊はこのころか。

1269（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））